

第26回 江東区政世論調査



スポーツと人情が熱いまち

江東区

江東区

令和5年(2023年)12月

1. 定住性
2. 防災対策
3. ごみ・リサイクル
4. 交通
5. 選挙
6. 区議会
7. 図書館
8. 緑化推進
9. 公園
10. 環境
11. 児童虐待
12. 広報
13. DX・ICT
14. 男女共同参画
15. コロナ禍による生活の変化
16. 施策への要望

もっとよくなる江東区を目指して

本区の人口は、平成27年6月に50万人に達し、現在は53万人を超えています。急激に人口が増加し、ライフスタイルや価値観が多様化する中、求められる行政ニーズに対応するためには、区民の皆さまの意見・要望をさまざまな手段を講じて聴取し、把握・分析した上で的確に区政へフィードバックさせていくことが重要と考えております。

そのため、区では「区長への手紙」、「パブリックコメント」などを通じ、多くの区民のみなさまのご意見をお聴きしています。

区政世論調査もその一環として昭和48年から隔年で実施しており、今回で26回目となりました。毎回お伺いしている定住意向は、90%と前回同様、非常に高い水準を維持しておりますが、今後も高い定住意向に満足することなく、区民の皆様に、より愛着を持って長く住み続けたいと思える江東区を目指し、邁進してまいります。

今回の調査では、デジタル化による社会状況の変化を踏まえ、「日常的に利用している情報通信機器」、「普段利用しているキャッシュレス決済」、「SNSの利用状況」などを新しく調査項目として設けました。継続して行っている調査項目の結果と合わせ、今後の区政運営や施策立案の際の貴重な基礎資料として、活用してまいります。

最後に、本調査の実施にあたり、ご協力いただきました区民の皆様に心から御礼を申し上げます。

令和5年12月

江 東 区

第1章 調査の概要	1
1 調査目的	3
2 調査内容	3
3 調査設計	4
4 回収結果	6
5 標本誤差	7
6 報告書の見方	8
7 調査設計及び回収結果の履歴一覧	10
第2章 調査回答者の属性	11
1 地区	13
2 性別	13
3 年齢	13
4 性別×年齢	14
5 国籍	14
6 職業	15
7 同居人の有無	15
8 住居形態	16
第3章 調査結果の概要	17
1 定住性	19
2 防災対策	21
3 ごみ・リサイクル	25
4 交通	27
5 選挙	29
6 区議会	32
7 図書館	33
8 緑化推進	34
9 公園	37
10 環境	40
11 児童虐待	41
12 広報	43
13 DX・ICT	48
14 男女共同参画	52
15 コロナ禍による生活の変化	53
16 施策への要望	54

目次

第4章 調査結果の分析	55
1 定住性	57
(1) 居住年数	59
(2) 定住・転出意向	62
(3) 定住意向理由	65
(4) 転出意向理由	68
2 防災対策	69
(1) 震災時の不安	71
(2) 大地震の際の防災対策への要望	76
(3) 大規模水害の際の防災対策への要望	81
(4) 家庭内で準備している防災用品・用具	83
(5) 在宅避難の備え	86
3 ごみ・リサイクル	89
(1) ごみを減らすために行っている取り組み	91
(2) 食品ロス削減のために取り組んでいること、取り組みたいこと	95
4 交通	99
(1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じる	101
(2) 移動手段で重視するもの	104
(3) 自転車利用について区が取り組むべき施策	107
5 選挙	111
(1) 江東区議会議員選挙・江東区長選挙の投票の有無	113
(2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの	117
(3) 投票しなかった理由	119
(4) 「選挙公報」の閲読状況	121
6 区議会	123
(1) 「こうとう区議会だより」の閲読状況	125
(2) 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体	128
7 図書館	131
(1) 区内図書館の利用頻度	133
(2) 図書館サービスへの要望	136
8 緑化推進	139
(1) 区内のみどりの満足度	141
(2) どんな時に、みどりがあって良かったと感じるか	144
(3) 取り組んでいる、または今後取り組みたいと思うみどりに関する事業	148

9	公園	153
	(1) 公園の利用頻度	155
	(2) 公園を利用する主な目的	158
	(3) 公園の遊具についての考え	161
	(4) 公園整備のあり方についての考え	163
10	環境	165
	(1) 区民の環境美化意識の向上を図るために必要だと思うもの	167
	(2) 環境への施策を推進するために、区が重点的に取り組むべき施策	170
11	児童虐待	173
	(1) 身近で児童虐待があった場合の通告（相談）の有無	175
	(2) 通告（相談）をしない、または、するかわからない理由	178
	(3) 思いつく通告（相談）先	180
12	広報	183
	(1) 区が行っている事業やイベント、仕事内容などの認知媒体	185
	(2) 区政情報の入手状況	188
	(3) 充実させるべき区の情報発信の分野	190
	(4) 「こうとう区報」の閲読状況	192
	(5) 「江東ワイドスクエア」の視聴状況	195
	(6) 「江東ワイドスクエア」の視聴時間帯	197
	(7) 「江東ワイドスクエア」インターネット配信の認知媒体	199
	(8) 「江東ワイドスクエア」で興味のある内容	200
13	DX・ICT	203
	(1) インターネットが利用できる情報通信機器の保有状況	205
	(2) 情報通信機器で利用している機能やサービス	207
	(3) 利用しているキャッシュレス決済	210
	(4) 情報通信機器を利用していない理由	212
	(5) デジタル化を進めてほしい施策	214
14	男女共同参画	217
	(1) 配偶者との家事の役割分担	219
15	コロナ禍による生活の変化	221
	(1) 新型コロナウイルス感染症による日常生活の変化	223
16	施策への要望	227
	(1) 力を入れてほしい施策	229

目次

《巻末資料1》	クロス集計表	235
1	定住性	237
2	防災対策	240
3	ごみ・リサイクル	245
4	交通	247
5	選挙	250
6	区議会	254
7	図書館	256
8	緑化推進	258
9	公園	262
10	環境	266
11	児童虐待	268
12	広報	270
13	DX・ICT	276
14	男女共同参画	281
15	コロナ禍による生活の変化	282
16	施策への要望	283
17	フェイスシート	291
《巻末資料2》	調査票のサンプル	297
1	定住性	300
2	防災対策	301
3	ごみ・リサイクル	302
4	交通	303
5	選挙	304
6	区議会	305
7	図書館	305
8	緑化推進	306
9	公園	307
10	環境	308
11	児童虐待	309
12	広報	310
13	DX・ICT	312
14	男女共同参画	314
15	コロナ禍による生活の変化	315
16	施策への要望	315
17	フェイスシート	316

第1章 調査の概要

1 調査目的

江東区政の各分野について区民の意識や動向、意見や要望などを把握することにより、今後の区政運営の参考に資する。

2 調査内容

- (1) 定住性
- (2) 防災対策
- (3) ごみ・リサイクル
- (4) 交通
- (5) 選挙
- (6) 区議会
- (7) 図書館
- (8) 緑化推進
- (9) 公園
- (10) 環境
- (11) 児童虐待
- (12) 広報
- (13) DX・ICT
- (14) 男女共同参画
- (15) コロナ禍による生活の変化
- (16) 施策への要望

3 調査設計

- (1) 調査地域：江東区全域
- (2) 調査対象：江東区在住の満18歳以上の男女（外国人を含む）
- (3) 標本数：3,000人 ※標本数＝調査対象者数
- (4) 標本抽出：住民基本台帳からの層化2段無作為抽出
※詳細な手順はページ下の「■ 標本抽出」の通り
- (5) 調査方法：郵送配布－郵送・Web回収法
- (6) 調査期間：令和5年7月12日（水）～8月7日（月）
※調査は3週間かけて実施した。
- (7) 調査機関：株式会社 アダムコミュニケーション
- (8) 備考：調査の実施にあたっては、回収率向上のため、以下の①～④を行った。
 - ①区報（R5.7.1号）、および、区ホームページにて調査について周知した。
 - ②調査期間開始の約1週間前に、予告はがきを調査対象者あてに送付した。
 - ③調査についての情報を目の不自由な方（視覚障害者・高齢者）に伝えるため、調査票を送付する封筒に音声コードを印刷し、その位置を示す切り欠き加工を行った。
 - ④調査期間開始から約2週間経過後に、お礼（督促）はがきを調査対象者あてに送付した。

■ 標本抽出

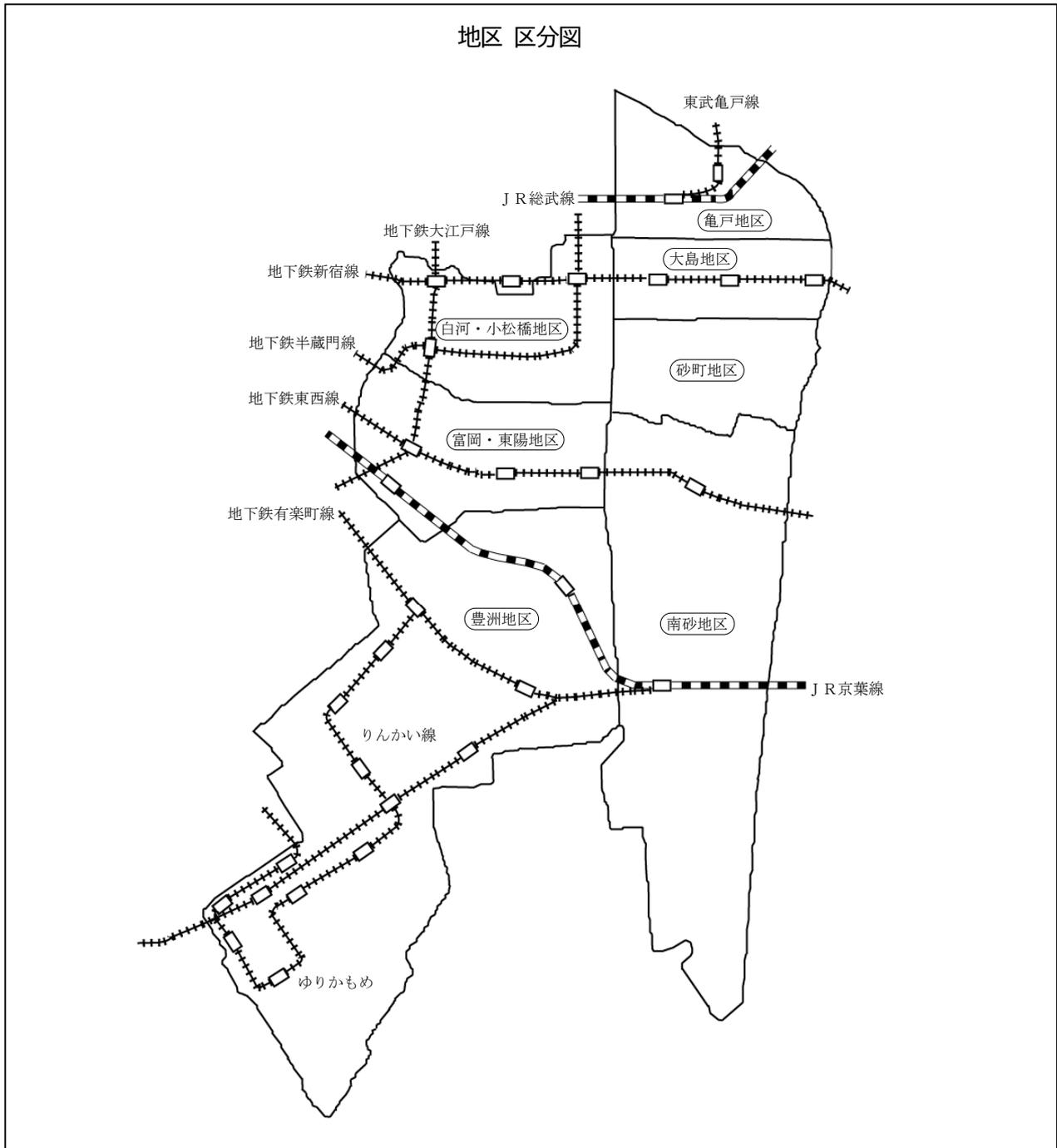
住民基本台帳からの層化2段無作為抽出

(i) 標本設計

- ①母集団：令和5年6月1日現在の江東区住民基本台帳上の満18歳以上の男女（外国人を含む）
- ②地点数：150地点（1地点20人）
- ③標本数：3,000人（150地点×20人／1地点）

(ii) 標本抽出の手順の詳細

- ①層化：1又は2箇所の出張所（旧出張所を含む）の所管区域を単位として7地区に層化を行う。（次ページ参照）
- ②地点数配分：各地区の住民数に比例する形で、地点数150地点を配分する。
※住民数が多ければ、配分される地点数がそれに応じて多くなる。
- ③スタート地点：各地区のスタート地点を、3ケタのランダム数により決定する。
※仮に、大島地区における3ケタのランダム数が435であった場合、住民基本台帳上の435番目の方がスタート地点となる。
- ④地点当り人数：各地区ごとに、住民数と地点数に応じて、地点当り人数を定める。
※地点当り人数＝住民数÷地点数（小数点以下は切り捨て）
- ⑤地点抽出：各地区において、スタート地点を起点として、地点当り人数を地点数の数だけ足し合わせていくことで、地点を抽出する。
※1地点目：スタート地点、2地点目：スタート地点＋地点当り人数、3地点目：スタート地点＋地点当り人数×2、...
- ⑥対象者抽出：抽出された各地点より、1地点当り20人の調査対象者を抽出する。
※15人間隔での抽出を20回繰り返すことで20人を抽出する。



地区・地名等 対応表

	地区	地名等
1	白河・小松橋	清澄、常盤、新大橋、森下、平野、三好、白河、高橋、千石、石島、千田、海辺、扇橋、猿江、住吉、毛利
2	富岡・東陽	佐賀、永代、福住、深川、冬木、門前仲町、富岡、牡丹、古石場、越中島、木場、東陽、南砂2丁目1番1～5号・5～7番、新砂1丁目1番
3	豊洲	塩浜、枝川、豊洲、東雲、有明、辰巳、潮見、青海、海の森
4	亀戸	亀戸
5	大島	大島
6	砂町	北砂、南砂1・5丁目、南砂2丁目24～34番、東砂1～5丁目
7	南砂	東砂6～8丁目、南砂2丁目(1番1～5号・5～7番・24～34番を除く)・3・4・6・7丁目、新砂1丁目(1番を除く)・2・3丁目、夢の島、新木場、若洲

※令和5年6月1日現在

4 回収結果

- (1) 標本数：3,000人 ※標本数＝調査対象者数
 (2) 回収数：1,534人（郵送回収：1,019人、Web回収：515人）
 (3) 回収率：51.1%

回収結果内訳（地区／性別／年齢／性別×年齢）

		住民数 (18歳以上) ※R5.6.1現在		標本数 (調査対象者数) A		回収数 B		回収率 C=B/A	
			構成比		構成比		構成比		
合計		459,073	100.0%	3,000	100.0%	1,534	100.0%	51.1%	
地区	白河・小松橋	74,700	16.3%	480	16.0%	263	17.1%	54.8%	
	富岡・東陽	67,131	14.6%	440	14.7%	231	15.1%	52.5%	
	豊洲	100,955	22.0%	660	22.0%	309	20.1%	46.8%	
	亀戸	55,158	12.0%	360	12.0%	177	11.5%	49.2%	
	大島	56,298	12.3%	360	12.0%	176	11.5%	48.9%	
	砂町	65,799	14.3%	420	14.0%	221	14.4%	52.6%	
	南砂	39,032	8.5%	280	9.3%	141	9.2%	50.4%	
	(無回答)	—	—	—	—	16	1.0%	—	
性別	男性	224,032	48.8%	1,493	49.8%	676	44.1%	45.3%	
	女性	235,041	51.2%	1,507	50.2%	836	54.5%	55.5%	
	その他	—	—	—	—	5	0.3%	—	
	(無回答)	—	—	—	—	17	1.1%	—	
年齢	18～29歳	73,536	16.0%	490	16.3%	146	9.5%	29.8%	
	30～39歳	76,434	16.6%	553	18.4%	252	16.4%	45.6%	
	40～49歳	87,832	19.1%	588	19.6%	303	19.8%	51.5%	
	50～59歳	82,087	17.9%	526	17.5%	301	19.6%	57.2%	
	60～69歳	49,771	10.8%	295	9.8%	182	11.9%	61.7%	
	70歳以上	89,413	19.5%	548	18.3%	334	21.8%	60.9%	
	(無回答)	—	—	—	—	16	1.0%	—	
性別×年齢	男性	18～29歳	37,079	16.6%	254	17.0%	66	9.8%	26.0%
		30～39歳	38,243	17.1%	300	20.1%	117	17.3%	39.0%
		40～49歳	44,262	19.8%	302	20.2%	125	18.5%	41.4%
		50～59歳	42,052	18.8%	279	18.7%	135	20.0%	48.4%
		60～69歳	24,646	11.0%	141	9.4%	91	13.5%	64.5%
		70歳以上	37,750	16.9%	217	14.5%	141	20.9%	65.0%
		(無回答)	—	—	—	—	1	0.1%	—
	女性	18～29歳	36,457	15.5%	236	15.7%	78	9.3%	33.1%
		30～39歳	38,191	16.2%	253	16.8%	134	16.0%	53.0%
		40～49歳	43,570	18.5%	286	19.0%	177	21.2%	61.9%
		50～59歳	40,035	17.0%	247	16.4%	164	19.6%	66.4%
		60～69歳	25,125	10.7%	154	10.2%	91	10.9%	59.1%
		70歳以上	51,663	22.0%	331	22.0%	192	23.0%	58.0%
		(無回答)	—	—	—	—	0	0.0%	—

5 標本誤差

標本誤差とは・・・

今回の調査では、令和5年6月1日における江東区在住の満18歳以上の男女（外国人を含む）459,073人から、3,000人を抽出して標本調査を行った。

本調査の様に、全体（母集団）から一部を抽出して行う標本調査では、全体（母集団）を対象に行った調査に比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことを標本誤差という。

標本誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、数学的に計算することが可能である。なお、標本誤差は①比率算出の基礎（回答者数）〔n〕および②回答の比率（%）〔P〕によっても異なる。標本誤差の計算式および第26回江東区政世論調査における標本誤差については以下のとおり。

標本誤差の計算式

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団数（江東区の満18歳以上の人口）
n = 比率算出の基礎（回答者数）
P = 回答の比率（%）

第26回江東区政世論調査における標本誤差

基礎 (回答者数)[n]	回答の比率[P] 90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
1,534	± 2.2%	± 2.9%	± 3.3%	± 3.5%	± 3.6%
1,000	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
800	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
600	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
400	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
200	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
100	± 8.5%	± 11.3%	± 13.0%	± 13.9%	± 14.1%

※表の見方：例えば、問2の回答者数が1,534人で、江東区に「ずっと住みたい（住むつもり）」と回答した割合が49.6%であった場合、「その回答比率の誤差の範囲は最高でも±3.6%以内（46.0%～53.2%）である」と見ることが出来る。≪基礎（回答者数）〔n〕が1,534、回答の比率〔P〕が50%前後においては、標本誤差は、±3.6%のため。≫

※表は、 $\left(\frac{N-n}{N-1} \div 1 \right)$ として算出した。

6 報告書の見方

(1) 集計

(i) 集計方法

集計は、「①単純集計」と「②クロス集計」の2種類を行った。

①単純集計

設問ごとの、それぞれの選択肢に何人が回答したのかについての単純な集計

②クロス集計

回答者の属性（地区など）と各設問を縦横に掛け合わせた（クロスした）集計

(ii) クロス集計項目

クロス集計を行う項目については、フェイスシート関連8項目および、それに準ずる設問として2項目、計10項目を採用した。

①地区（F1）、②性別（F2）、③年齢（F3）、④性別×年齢（F2×F3）

⑤国籍（F4）、⑥職業（F5）、⑦同居人の有無（F6）、⑧住居形態（F7）

⑨居住年数（問1）、⑩定住・転出意向（問2）

(iii) クロス集計表

《巻末資料1》クロス集計表には、上記の10項目（①～⑩）を基本分類軸として掲載した。また、《巻末資料1》クロス集計表および本編中のクロス集計結果のグラフや表の分類軸は、無回答を省いたものを掲載している。

(2) 回答率（%）

(i) 回答率（%）の表記

回答率（%）は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位を算出したものを使用した。

(ii) 単一回答の設問

上記の（i）により、単一回答（選択肢を1つだけ選ぶ）設問において、すべての選択肢の回答率を合計しても100%に満たない、または上回る場合がある。

(iii) 複数の回答の合計値

2つ以上の選択肢を合わせた項目の回答率（%）を表記する場合、その回答率（%）は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、回答率（%）を再計算したものを使用している。このため、複数の回答の合計値と図表の数字が一致しない場合がある。

(iv) 回答率（%）の比較

回答率（%）の比較を行うにあたっては、ポイントと表記している。

回答率の合計が100%にならない、または、複数の回答の合計値が一致しない例

	四捨五入前の回答率(小数点第2位)	四捨五入後の回答率(小数点第1位)
選択肢A	50.15%	50.2%
選択肢B	39.85%	39.9%
選択肢C	10.00%	10.0%
合計	100.00%	100.1%

90.00% = 90.0%
 90.1%
 100%にならない
 四捨五入前の回答率の合計と一致しない

(3) 割合の表現

数値を考察するにあたり、割合の表現は以下の表の通りとしている。

区分	詳細	表現	
0.0%~9.9%	0.0%の場合	記述せず	
	0.1%以上で、5.0%には満たない場合	わずか	
	5.0%以上で、10.0%には満たない場合	1割未満	
10.0%~100.0%	1の位と小数点第1位が、 右記の場合	0.0~0.4%	〇割
		0.5~0.9%	ほぼ〇割
		1.0~3.9%	〇割を超え
		4.0~6.4%	〇割台半ば
		6.5~8.9%	〇割近く
		9.0~9.4%	ほぼ〇割
		9.5~9.9%	〇割
まとめる場合	同じ%台をまとめる場合(※1)	〇割台	
	2つの前後の%にまたがる場合(※2)	〇割前後	
	2つの後の%台にまたがる場合(※3)	〇割以上	

※1~3の具体例および表現例は以下の通り。

(※1) 71.2%と76.8%であれば、7割台

(※2) 69.3%と71.2%であれば、7割前後

(※3) 71.2%と83.4%であれば、7割以上

(4) 文章の一部省略および語句の簡略化

(i) 「第3章 調査結果の概要」における、設問の回答ルール案内文の取り扱い

①単一回答（選択肢を1つだけ選ぶ）設問については、調査票に記載した回答ルールに関する案内文を省略している。

（省略した案内文の例：次の中から1つだけ選んでください。）

②複数回答（選択肢を複数選ぶ）設問については、調査票に記載した回答ルールに関する案内文を省略した上で、複数回答の設問である旨を明示している。

（省略した案内文の例：次の中から2つまで選んでください。）

（複数回答の設問である旨の明示の例：（複数回答）※2つまで）

(ii) 「第4章 調査結果の分析」「《巻末資料1》クロス集計表」における、
設問文や選択肢の取り扱い

①設問文や選択肢を表において記述する場合、適宜、文章の一部省略や語句の簡略化を行っている。

7 調査設計及び回収結果の履歴一覧

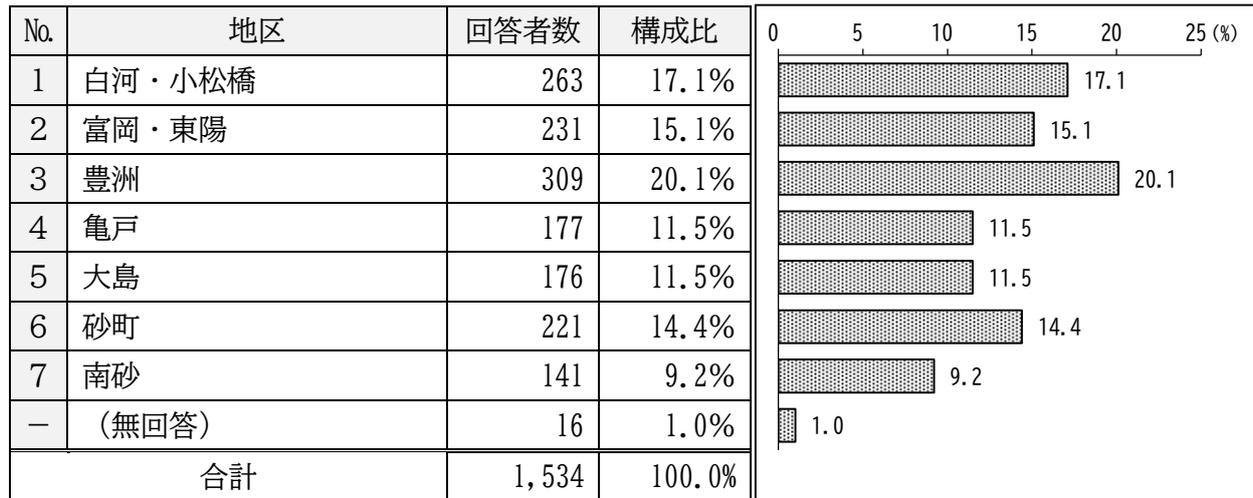
第1回（昭和48年度）から第26回（令和5年度）までの調査設計及び回収結果の履歴一覧は、以下のとおり。本報告書の一部の設問において、過年度比較を行っている。比較を行うにあたっては、調査設計の違い等について留意する必要がある。

調査設計及び回収結果の履歴一覧

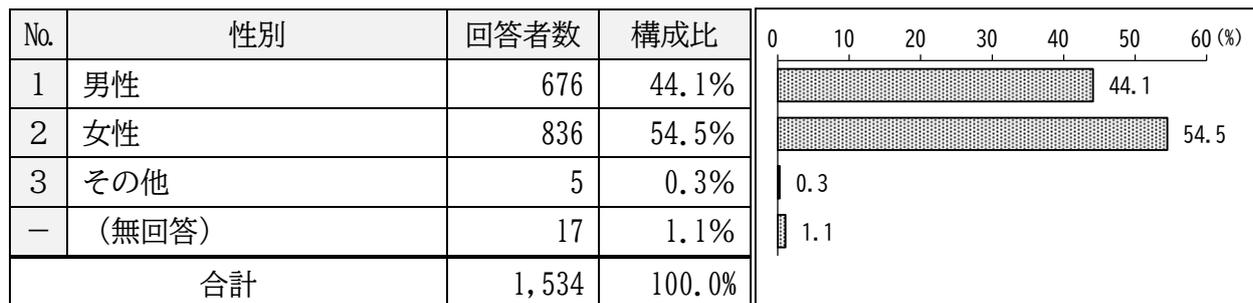
回数	実施年度	調査対象年齢	調査方法	調査対象者	回答数	回答率
1	昭和48年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	819	81.9%
2	昭和50年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	827	82.7%
3	昭和52年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	815	81.5%
4	昭和54年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	791	79.1%
5	昭和56年	20歳以上	個別面接聴取法	1,000人	819	81.9%
6	昭和58年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	990	82.5%
7	昭和60年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	976	81.3%
8	昭和62年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	938	78.2%
9	平成元年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	914	76.2%
10	平成3年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	1,027	85.6%
11	平成5年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	1,024	85.3%
12	平成7年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	994	82.8%
13	平成9年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	954	79.5%
14	平成11年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	931	77.6%
15	平成13年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	947	78.9%
16	平成15年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	951	79.3%
17	平成17年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	1,017	84.8%
18	平成19年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	935	77.9%
19	平成21年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	899	74.9%
20	平成23年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	904	75.3%
21	平成25年	20歳以上	個別面接聴取法	1,200人	906	75.5%
22	平成27年	20歳以上	個別面接聴取法	1,500人	1,061	70.7%
23	平成29年	18歳以上	個別面接聴取法	1,500人	980	65.3%
24	令和元年	18歳以上	郵送配布-郵送回収法	3,000人	1,668	55.6%
25	令和3年	18歳以上	郵送配布-郵送・Web回収法	3,000人	1,661	55.4%
26	令和5年	18歳以上	郵送配布-郵送・Web回収法	3,000人	1,534	51.1%

第2章 調査回答者の属性

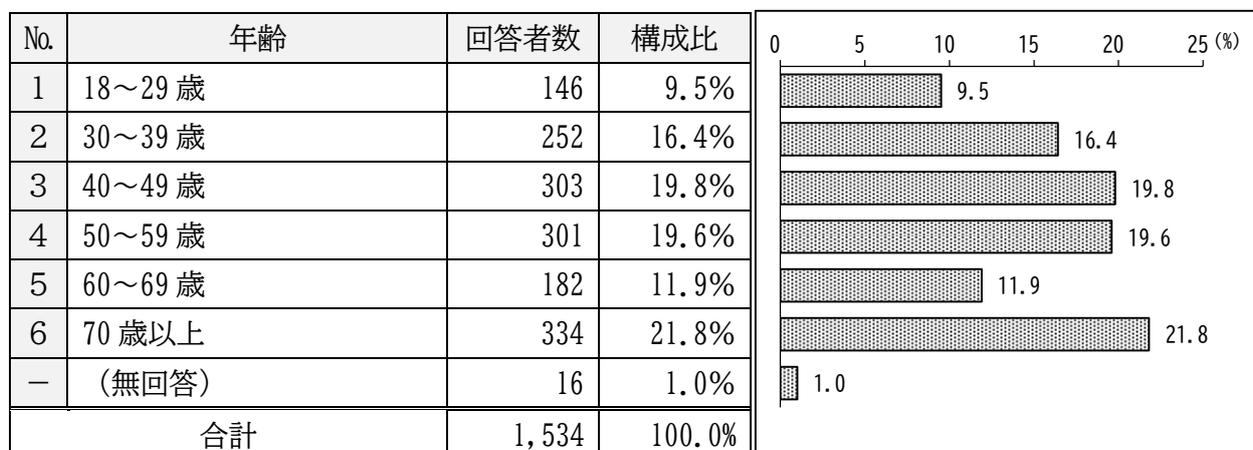
1 地区



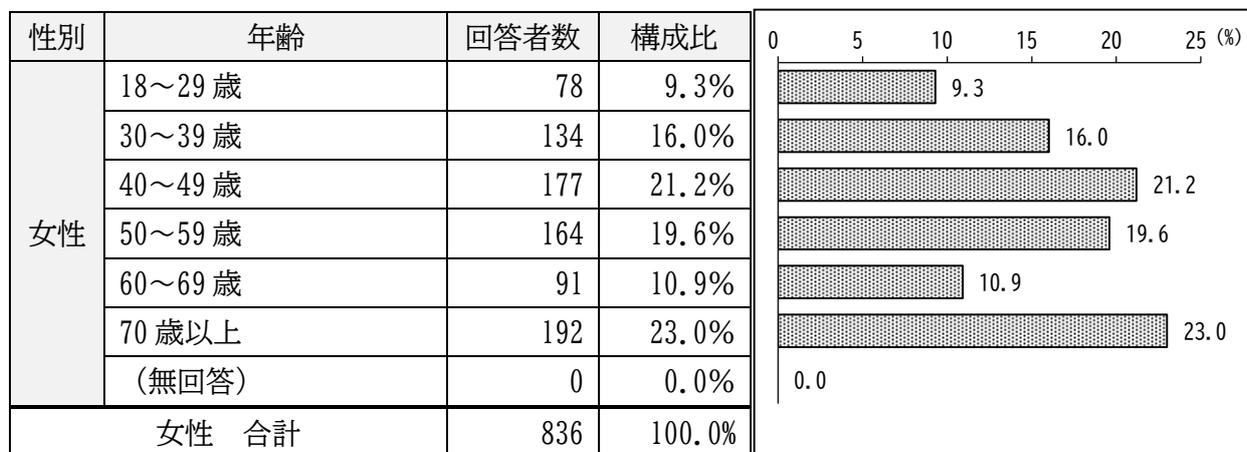
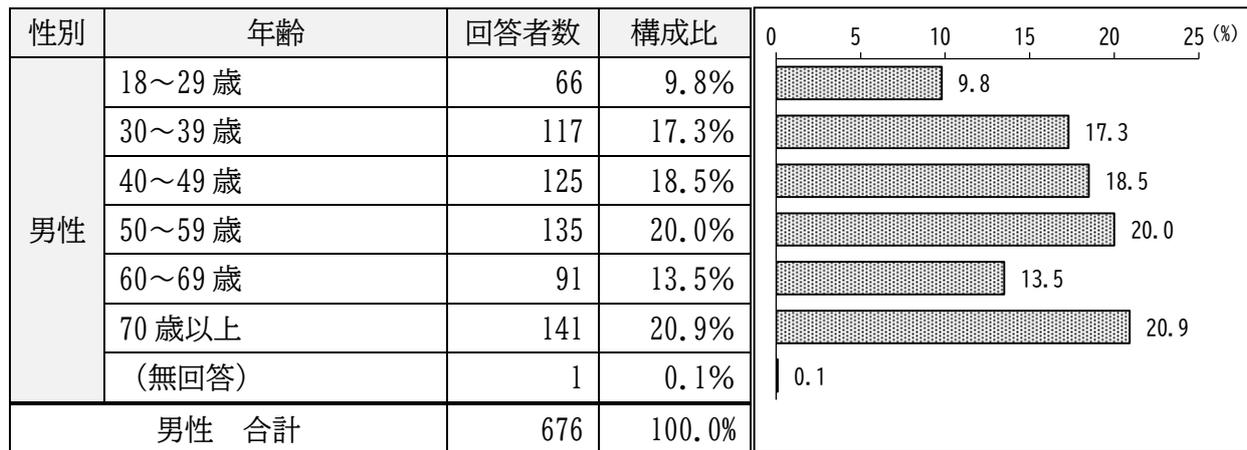
2 性別



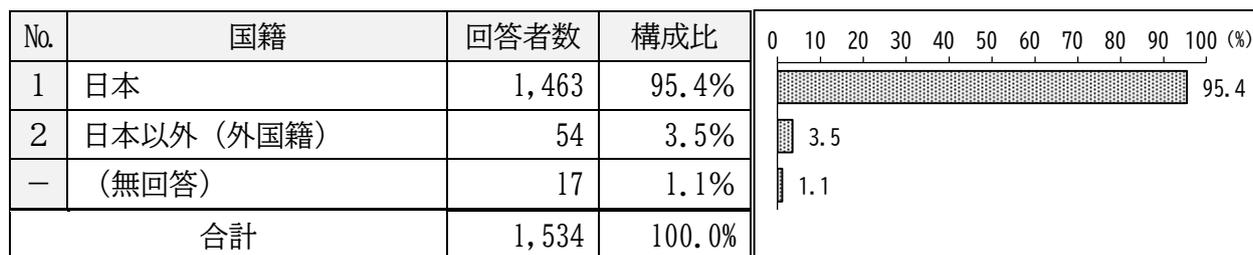
3 年齢



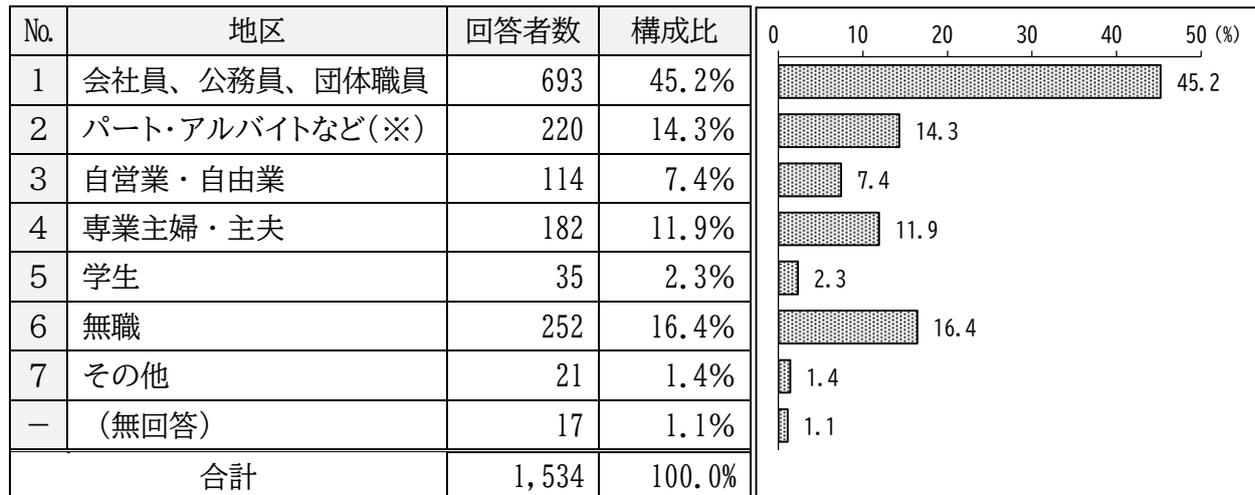
4 性別×年齢



5 国籍

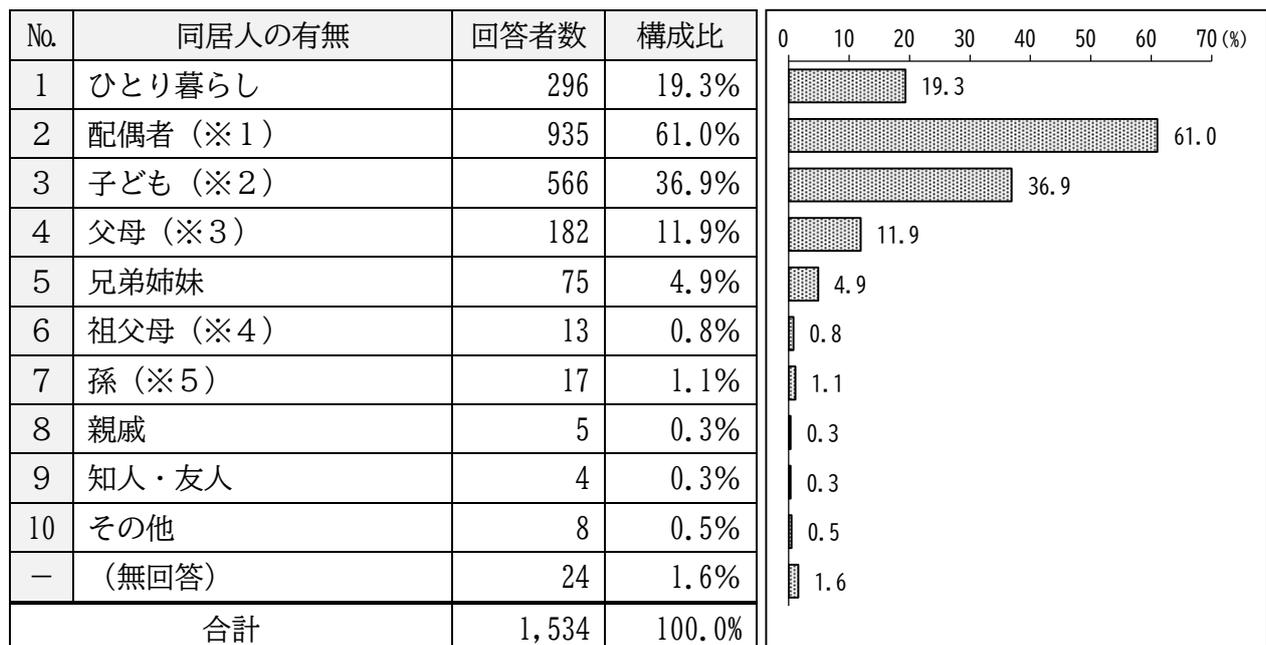


6 職業



※「パート・アルバイトなど」は非常勤・嘱託・派遣などを含む。

7 同居人の有無（複数回答可）



※1「2 配偶者」は、事実婚、同棲しているパートナーを含む。

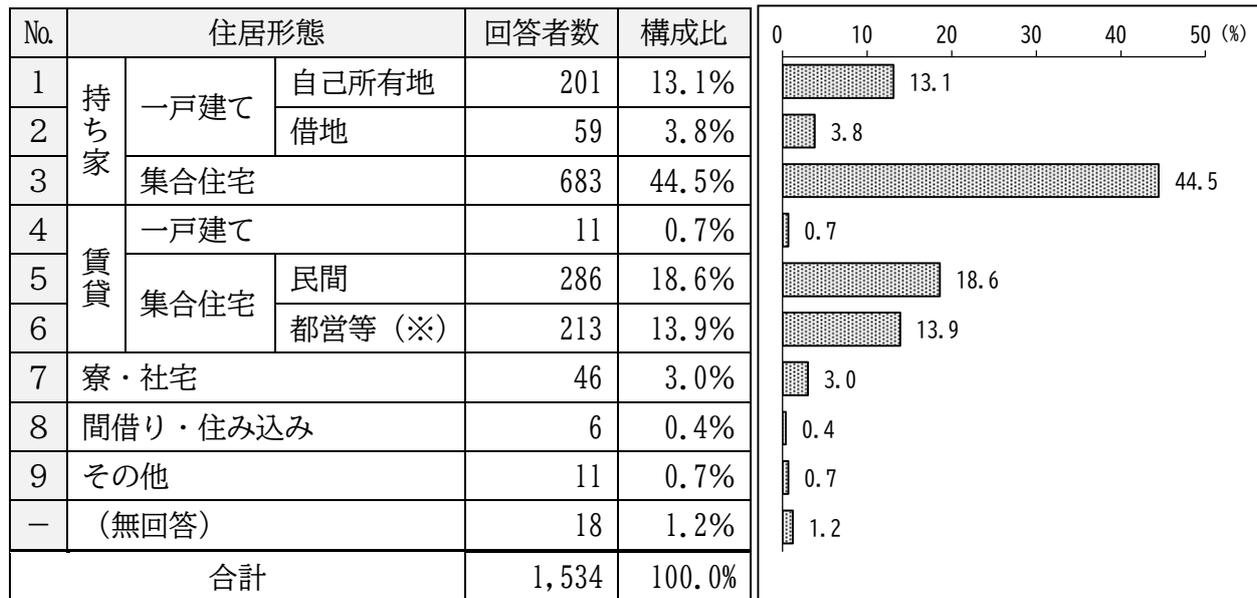
※2「3 子ども」は、嫁・婿など子どもの配偶者を含む。

※3「4 父母」は、義理の父母を含む。

※4「6 祖父母」は、義理の祖父母を含む。

※5「7 孫」は、孫の配偶者を含む。

8 住居形態



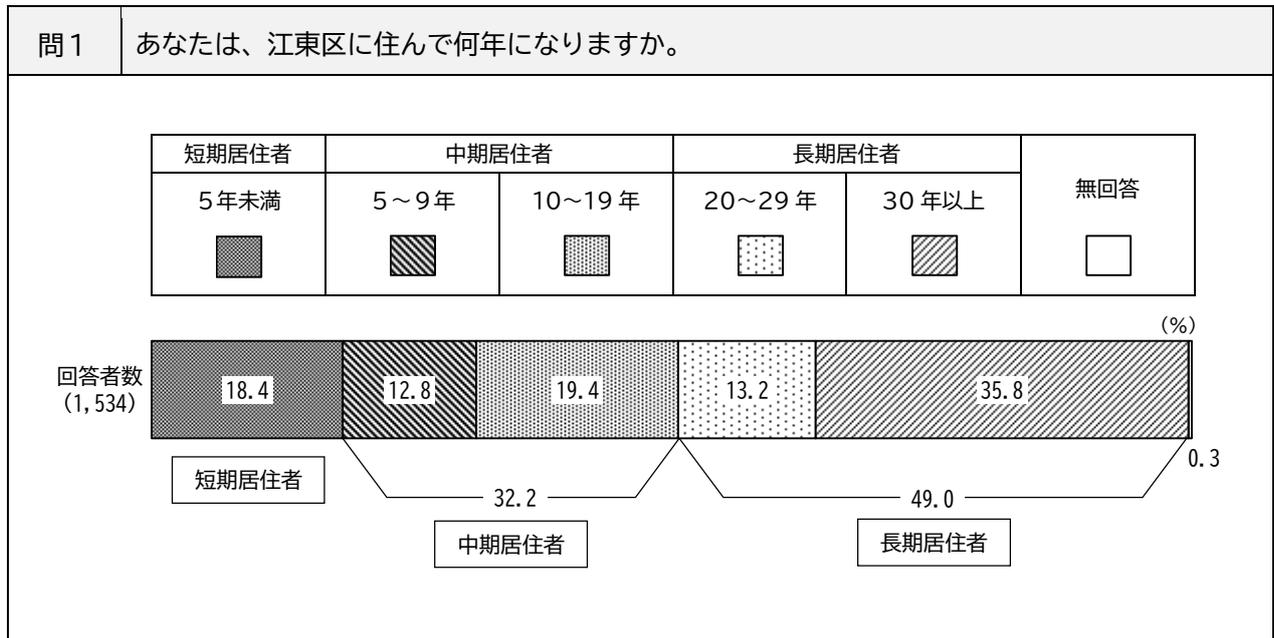
※「都営等」は、都営のほか、UR・JKK・区営を含む。

第3章 調査結果の概要

1 定住性

(1) 居住年数

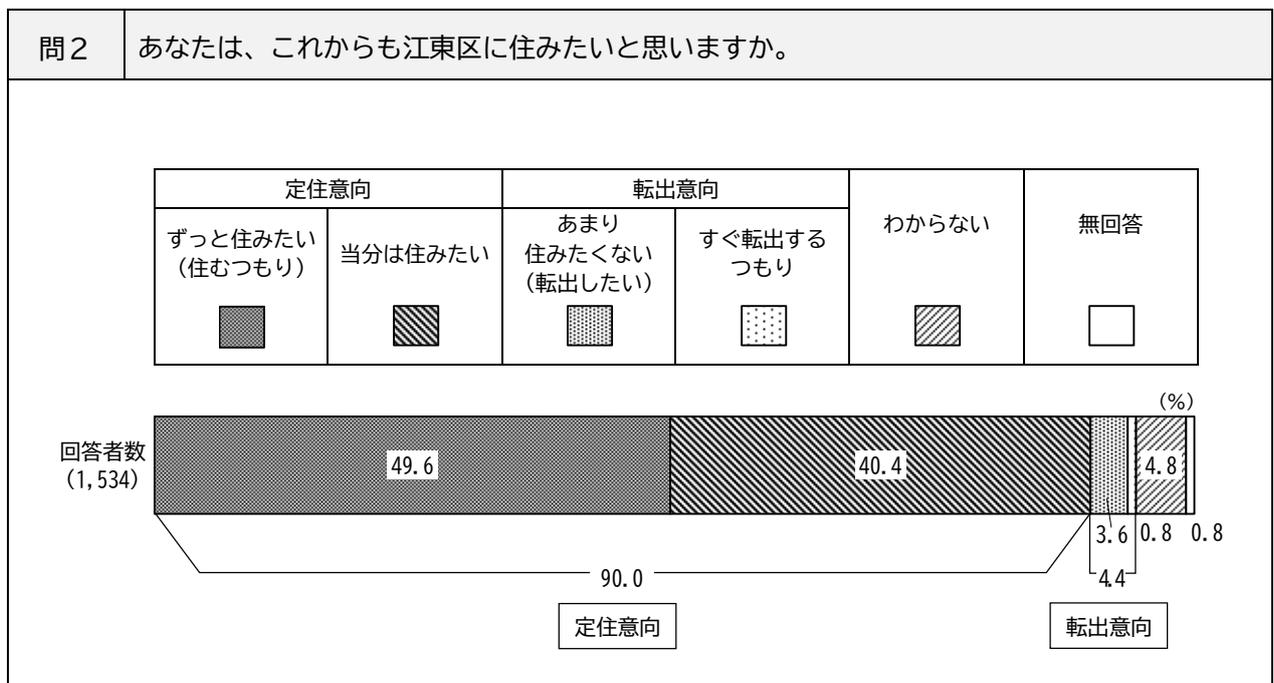
◇「長期居住者」はほぼ5割



○居住年数については、「20～29年」(13.2%)と「30年以上」(35.8%)の2つを合わせた「長期居住者」(49.0%)がほぼ5割となっている。

(2) 定住・転出意向

◇「定住意向」は9割

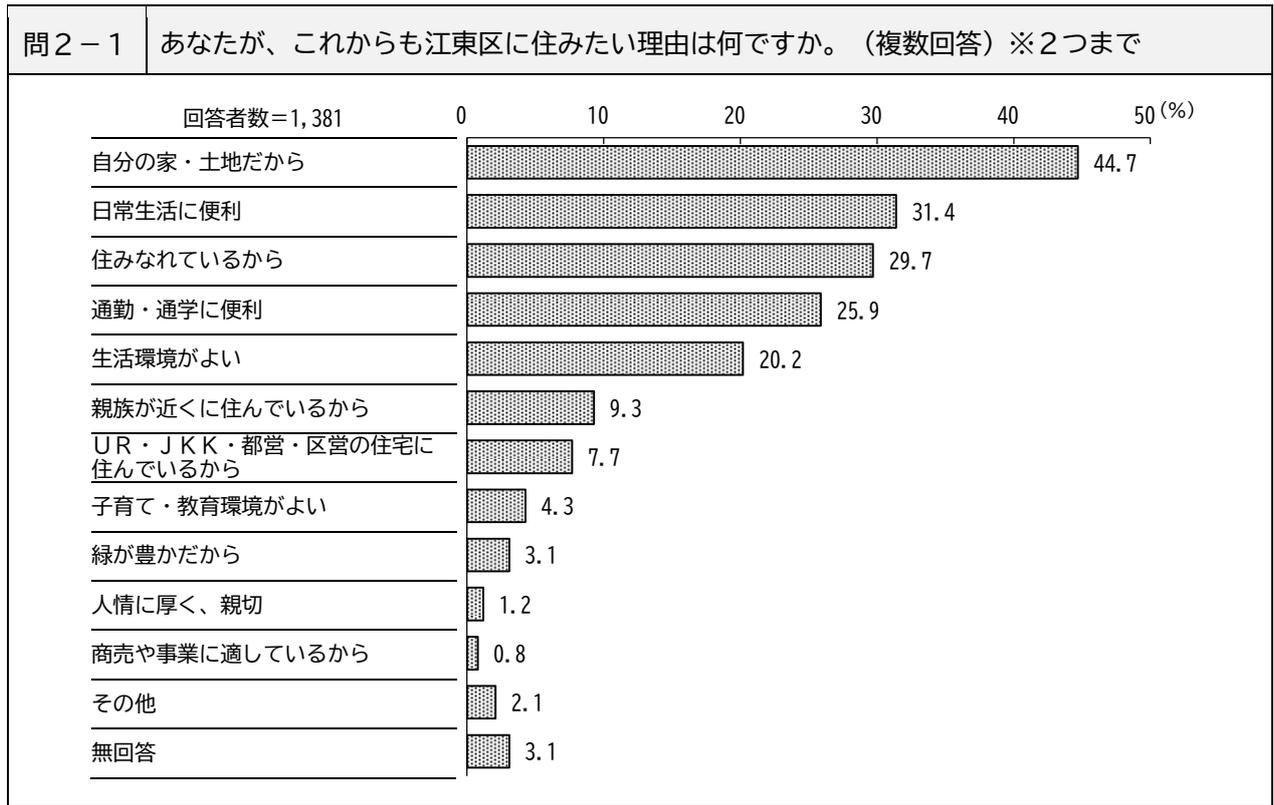


○定住・転出意向については、「ずっと住みたい(住むつもり)」(49.6%)と「当分は住みたい」(40.4%)の2つを合わせた「定住意向」(90.0%)は9割となっている。

第3章
調査結果の概要
1 定住性

(3) 定住意向理由

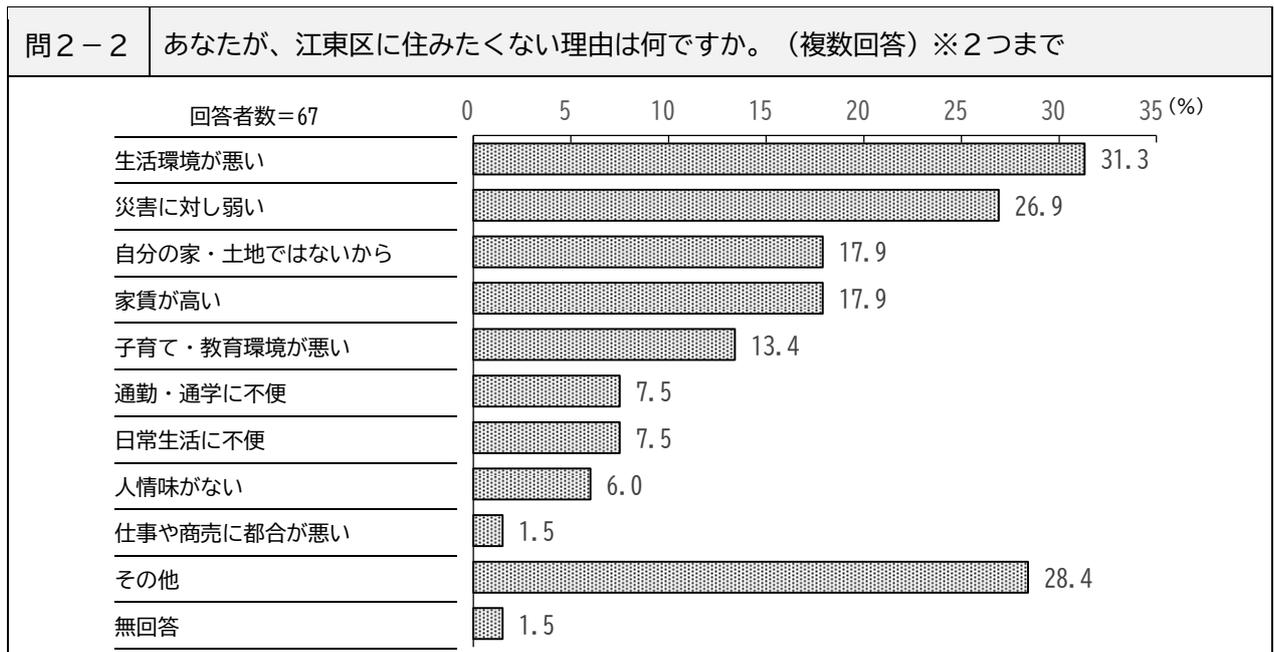
◇「自分の家・土地だから」が4割台半ば



○定住意向理由については、「自分の家・土地だから」(44.7%)が4割台半ばで最も多く、次いで「日常生活に便利」(31.4%)、「住みなれているから」(29.7%)と続いている。

(4) 転出意向理由

◇「生活環境が悪い」が3割を超える

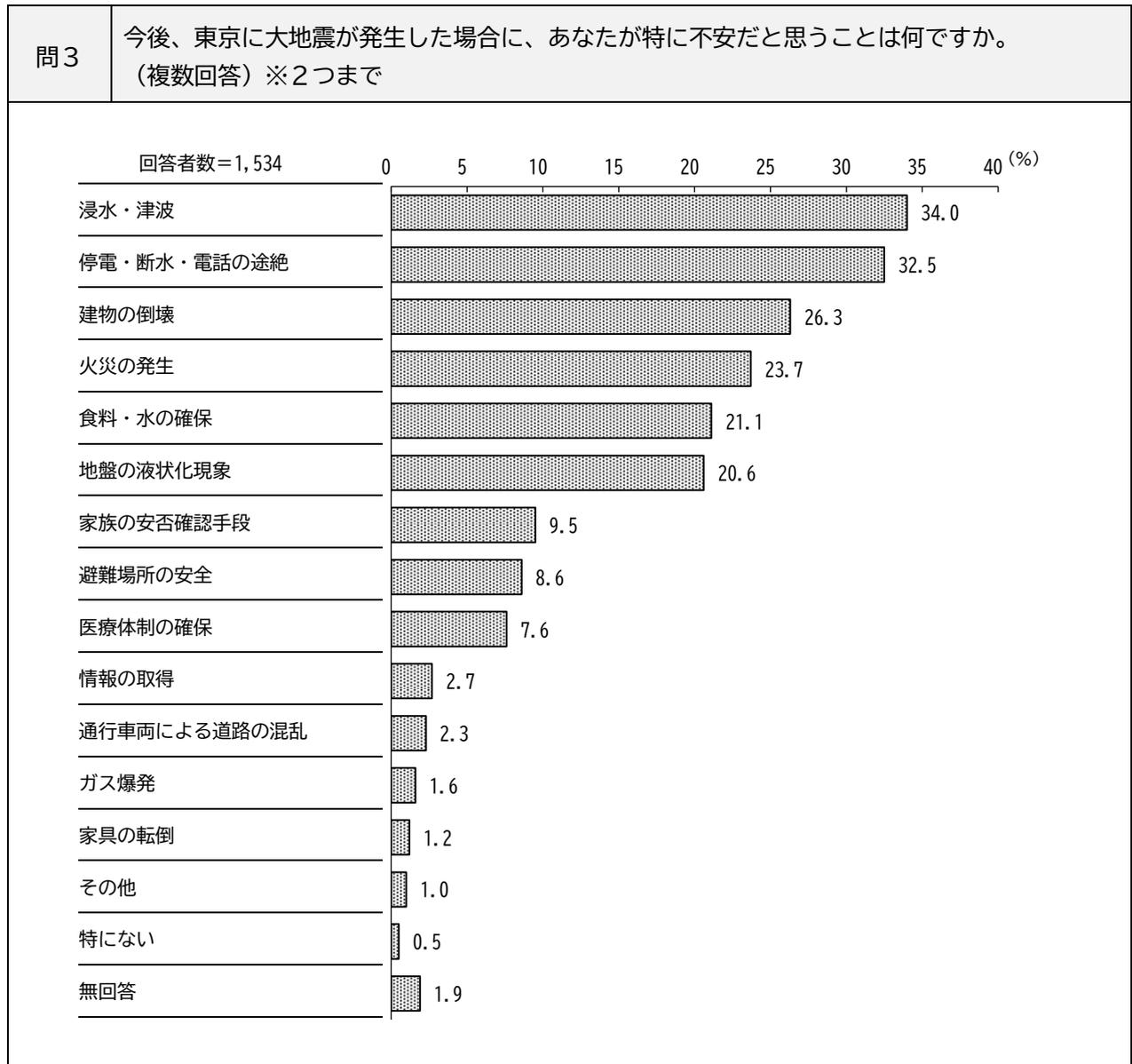


○転出意向理由としては、「生活環境が悪い」(31.3%)が3割を超えて最も多く、次いで「災害に対し弱い」(26.9%)、「自分の家・土地ではないから」(17.9%)、「家賃が高い」(17.9%)と続いている。

2 防災対策

(1) 震災時の不安

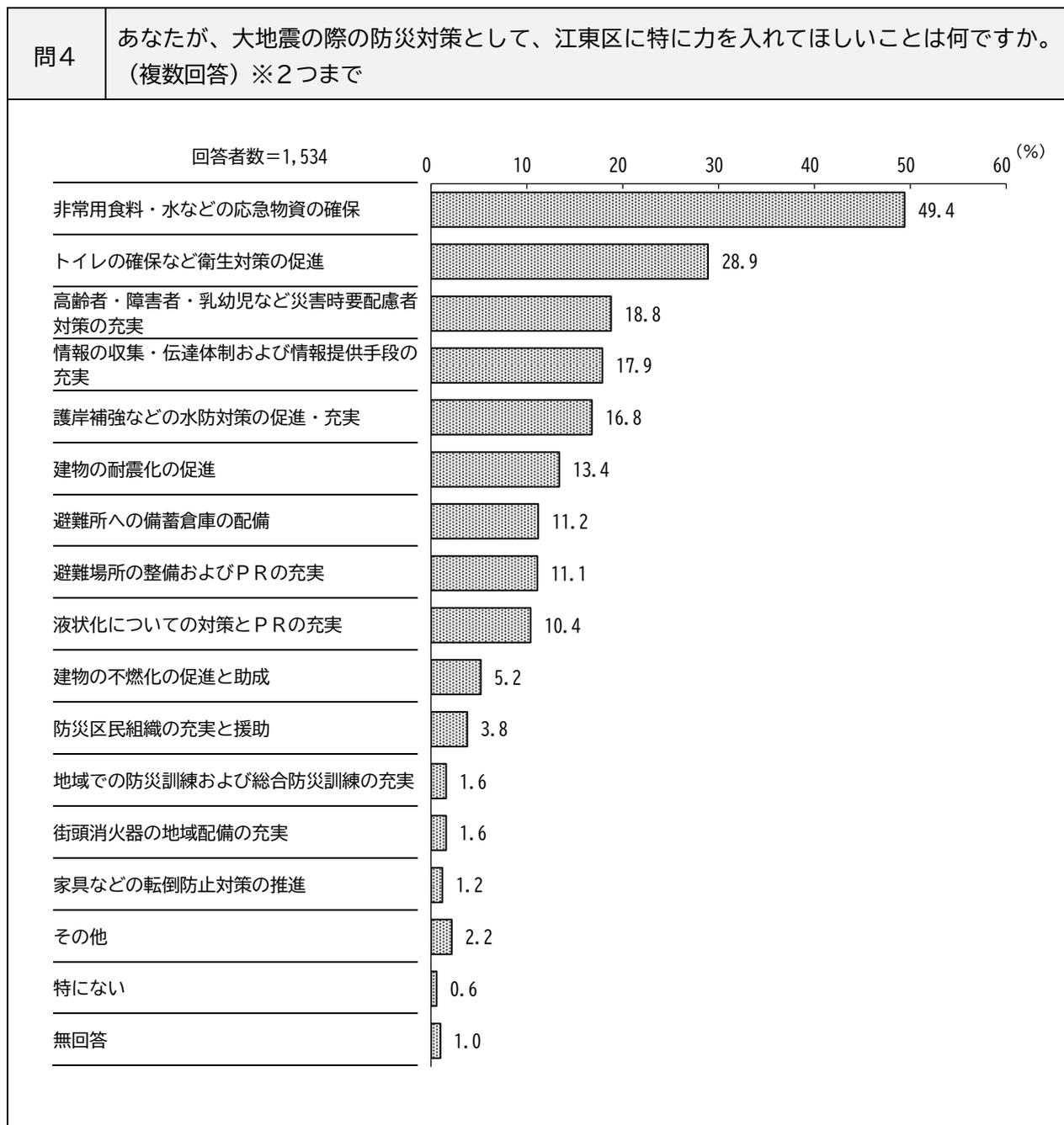
◇「浸水・津波」が3割台半ば



○大地震が起きたときに特に不安だと思うことを聞いたところ、「浸水・津波」(34.0%)が3割台半ばで最も多く、次いで「停電・断水・電話の途絶」(32.5%)、「建物の倒壊」(26.3%)と続いている。

(2) 大地震の際の防災対策への要望

◇「非常用食料・水などの応急物資の確保」がほぼ5割

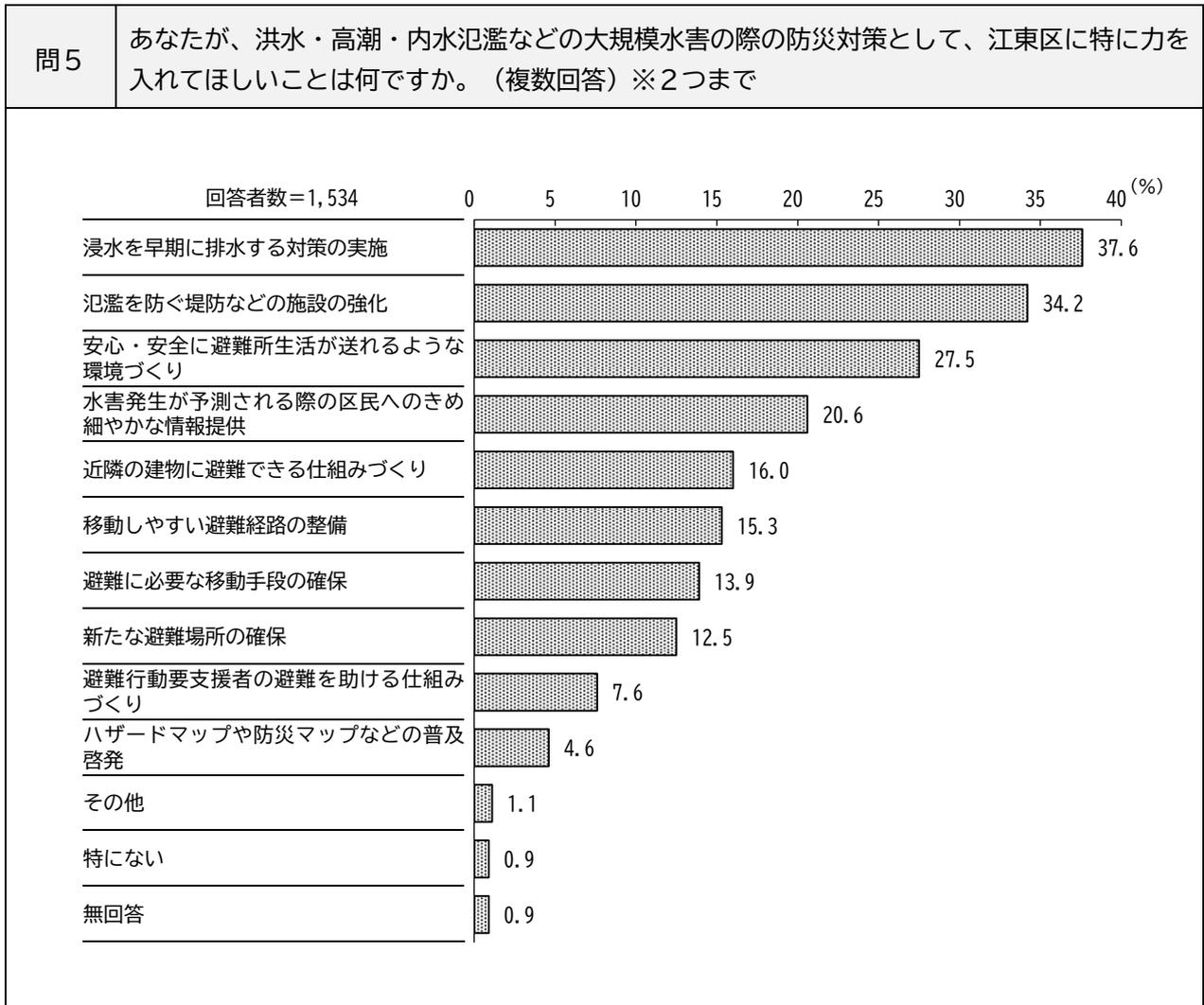


○大地震の際の防災対策として江東区に特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「非常用食料・水などの応急物資の確保」(49.4%)がほぼ5割で最も多く、次いで「トイレの確保など衛生対策の促進」(28.9%)、「高齢者・障害者・乳幼児など災害時要配慮者対策の充実」(18.8%)と続いている。

(3) 大規模水害の際の防災対策への要望

新規

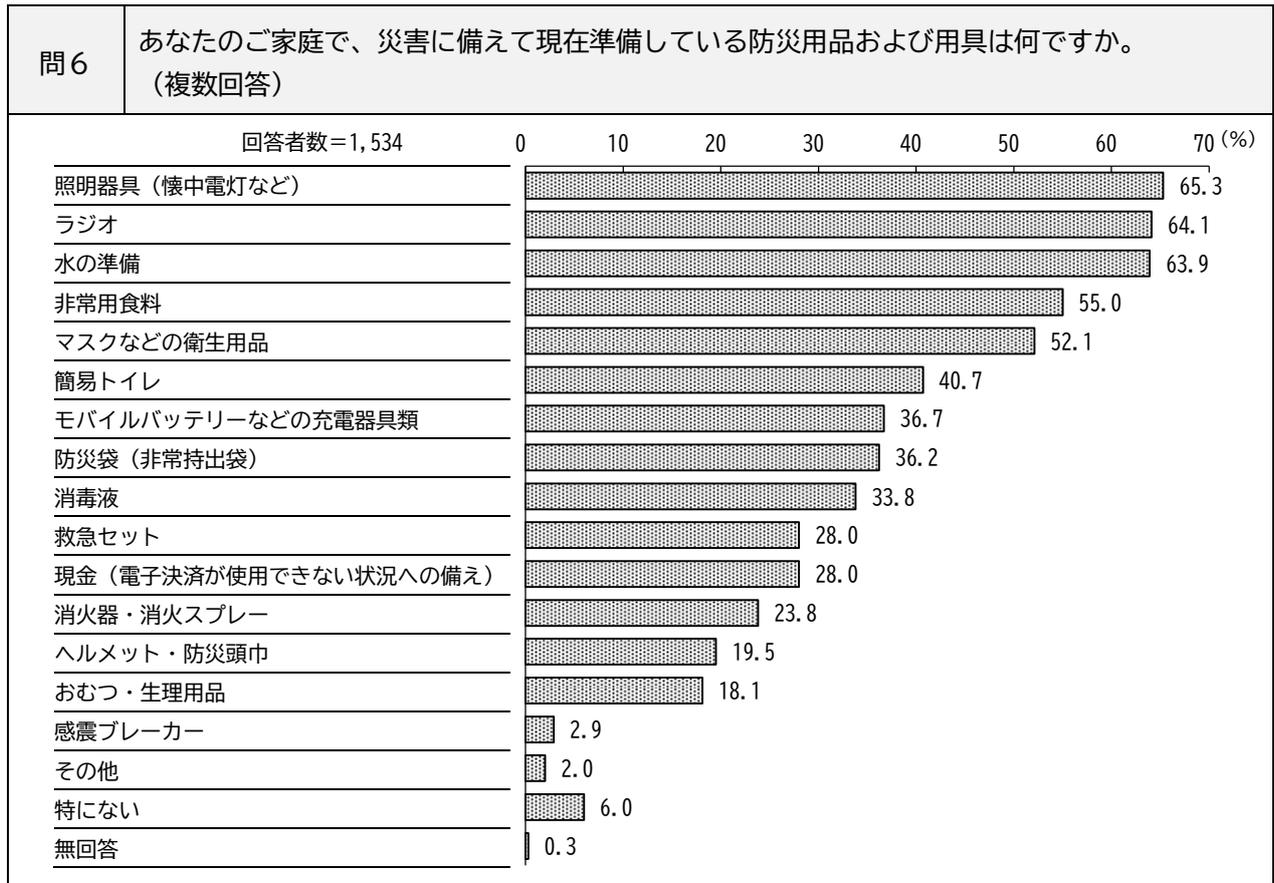
◇「浸水を早期に排水する対策の実施」が4割近く



○洪水・高潮・内水氾濫などの大規模水害の際の防災対策として江東区に特に力を入れてほしいことは何か聞いたところ、「浸水を早期に排水する対策の実施」（37.6%）が4割近くで最も多く、次いで「氾濫を防ぐ堤防などの施設の強化」（34.2%）、「安心・安全に避難所生活を送れるような環境づくり」（27.5%）と続いている。

(4) 家庭内で準備している防災用品・用具

◇「照明器具（懐中電灯など）」と「ラジオ」が6割台半ば

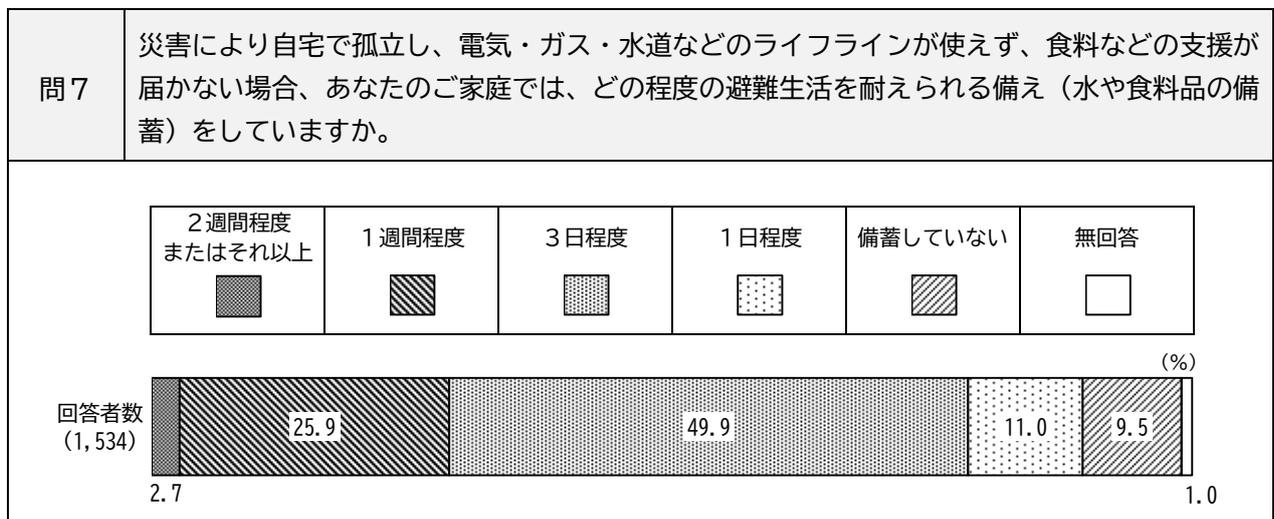


○災害に備えて家庭で準備している防災用品および用具を聞いたところ、「照明器具（懐中電灯など）」（65.3%）と「ラジオ」（64.1%）が6割台半ば、次いで「水の準備」（63.9%）も6割を超えている。

(5) 在宅避難の備え

新規

◇「3日程度」が5割

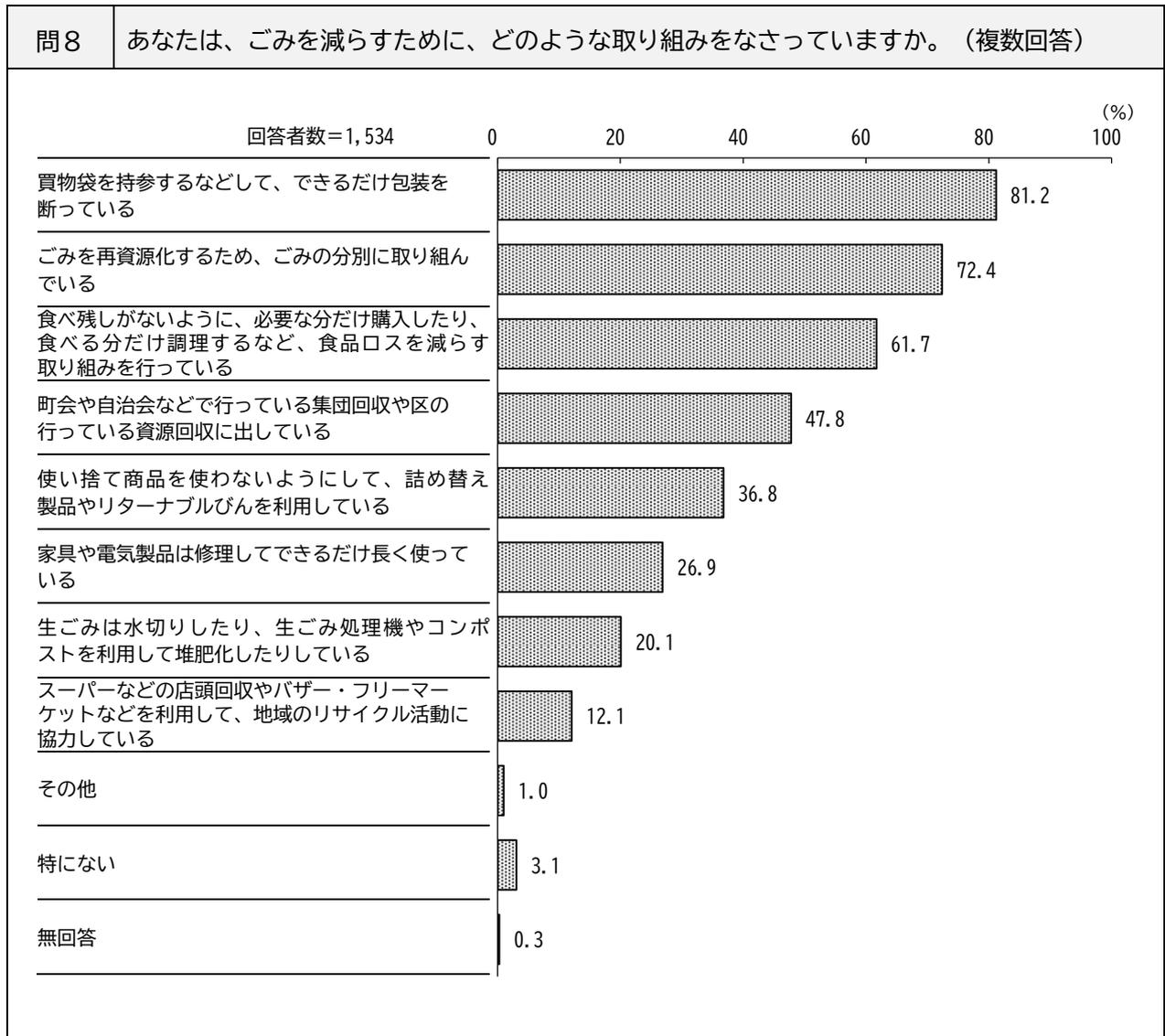


○災害により自宅で孤立した場合、どの程度の避難生活を耐えられる備えをしているか聞いたところ、「3日程度」（49.9%）が5割で最も多く、次いで「1週間程度」（25.9%）、「1日程度」（11.0%）と続いている。

3 ごみ・リサイクル

(1) ごみを減らすために行っている取り組み

◇「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」が8割を超える

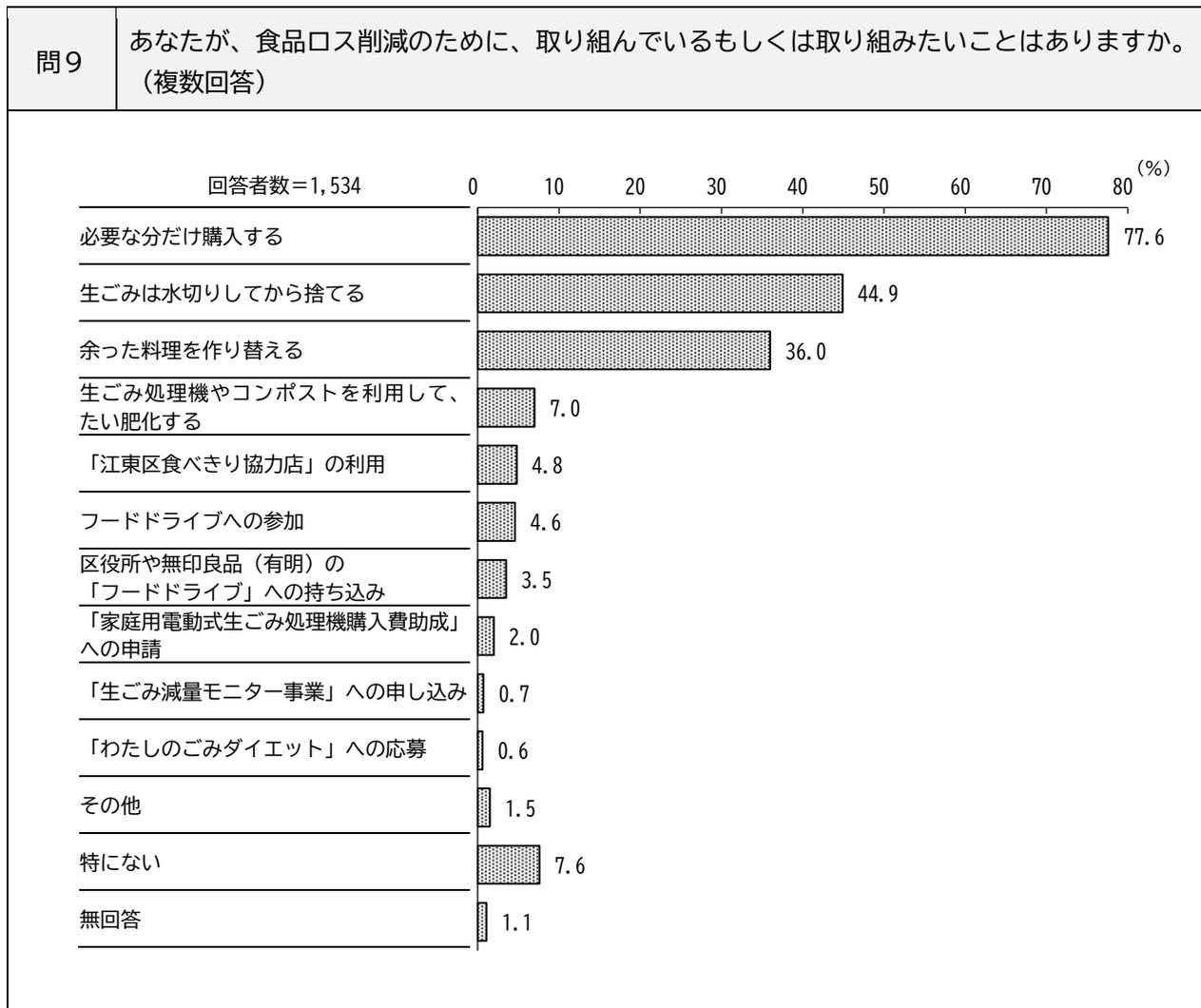


- ごみを減らすために行っている取り組みを聞いたところ、「買物袋を持参するなどして、できるだけ包装を断っている」（81.2%）が8割を超えて最も多く、次いで「ごみを再資源化するため、ごみの分別に取り組んでいる」（72.4%）、「食べ残しがないように、必要な分だけ購入したり、食べる分だけ調理するなど、食品ロスを減らす取り組みを行っている」（61.7%）と続いている。

(2) 食品ロス削減のために取り組んでいること、取り組みたいこと

新規

◇「必要な分だけ購入する」が8割近く

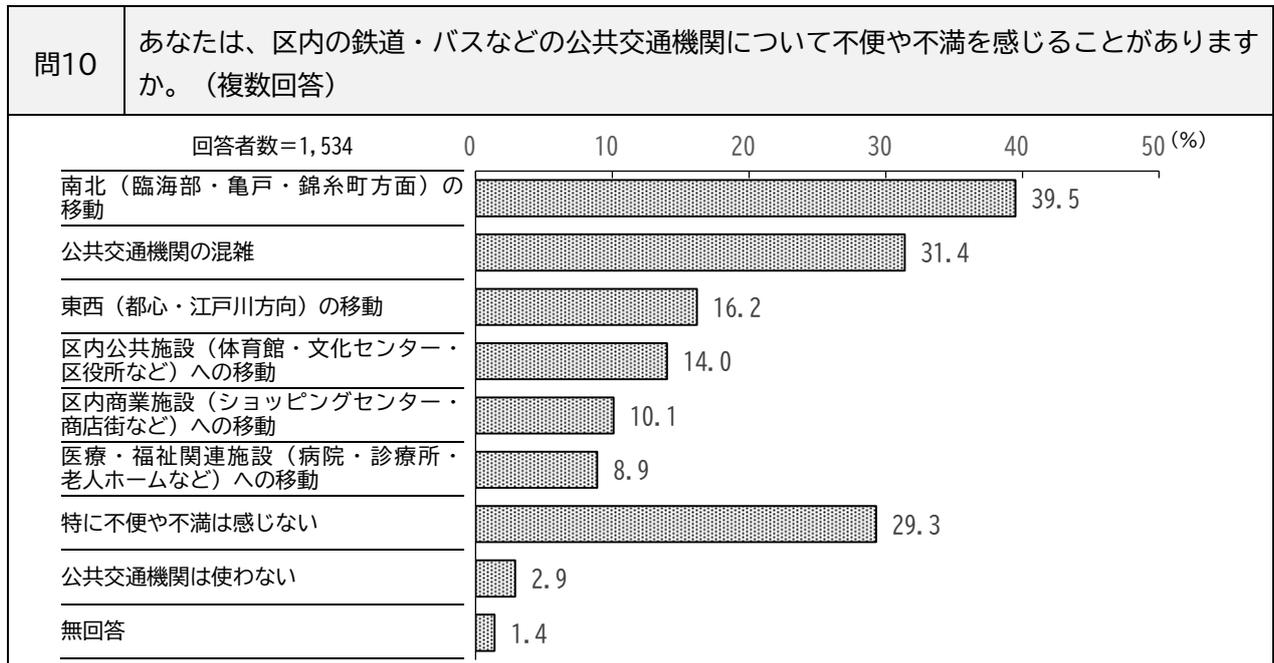


○食品ロス削減のために取り組んでいるもしくは取り組みたいことを聞いたところ、「必要な分だけ購入する」(77.6%)が8割近くで最も多く、次いで「生ごみは水切りしてから捨てる」(44.9%)、「余った料理を作り替える」(36.0%)と続いている。

4 交通

(1) 区内の公共交通機関で不便や不満を感じること

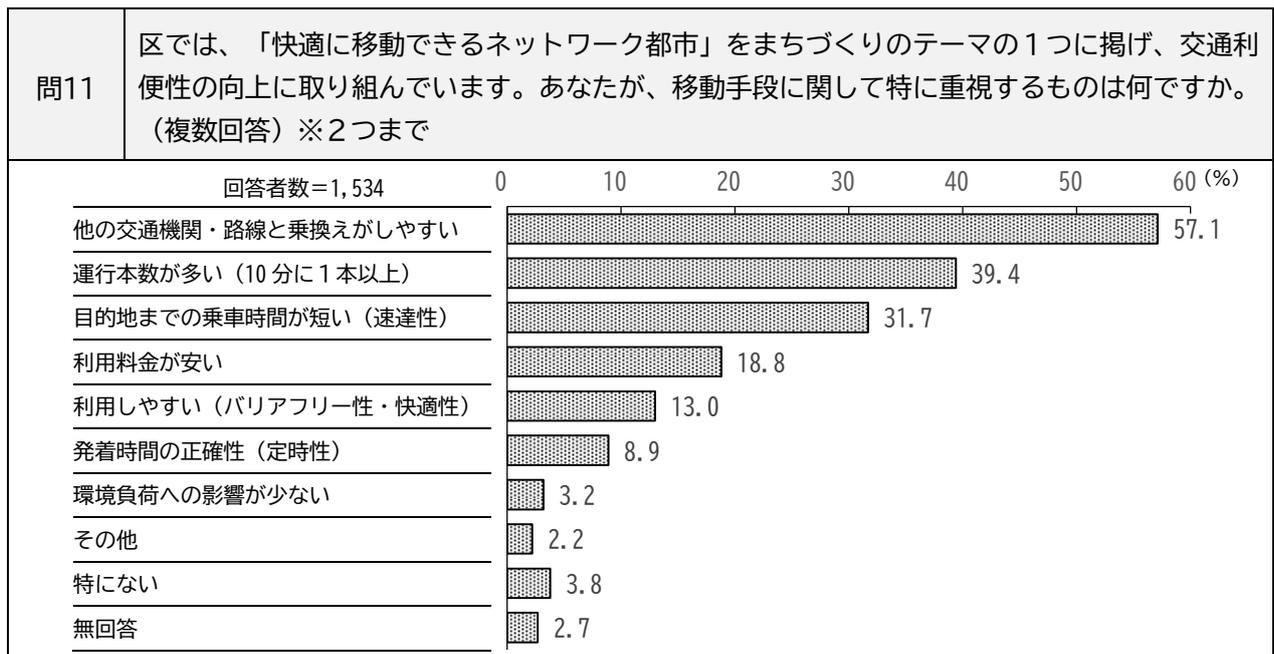
◇「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」が4割



○区内の鉄道・バスなどの公共交通機関について不便や不満を感じることを聞いたところ、「南北（臨海部・亀戸・錦糸町方面）の移動」（39.5%）が4割で最も多く、次いで「公共交通機関の混雑」（31.4%）、「東西（都心・江戸川方向）の移動」（16.2%）と続いている。

(2) 移動手段で重視するもの 新規

◇「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」が6割近く

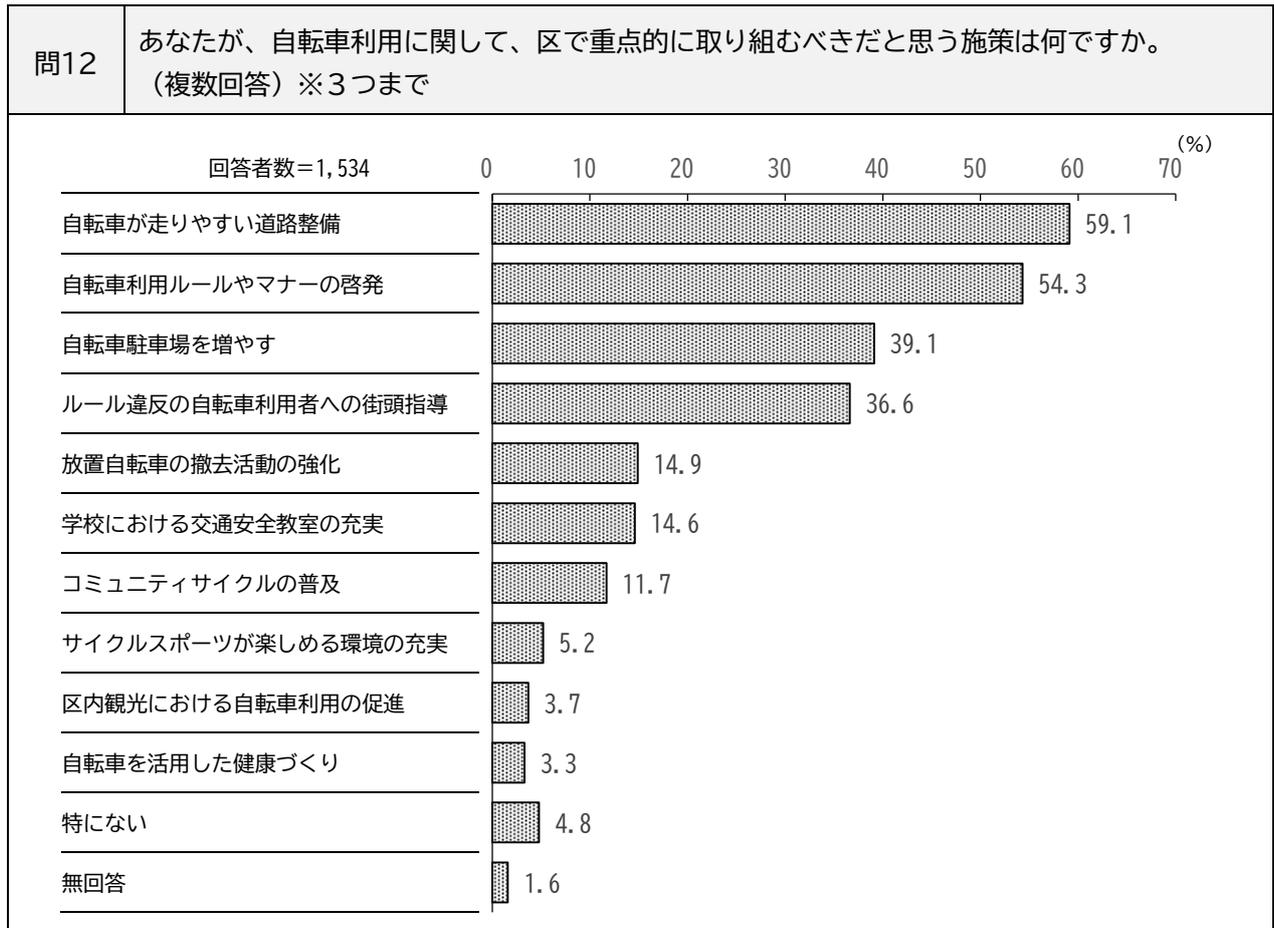


○移動手段に関して特に重視するものを聞いたところ、「他の交通機関・路線と乗換えがしやすい」（57.1%）が6割近くで最も多く、次いで「運行本数が多い（10分に1本以上）」（39.4%）、「目的地までの乗車時間が短い（速達性）」（31.7%）と続いている。

第3章 調査結果の概要
4 交通

(3) 自転車利用について区が取り組むべき施策

◇「自転車が走りやすい道路整備」がほぼ6割

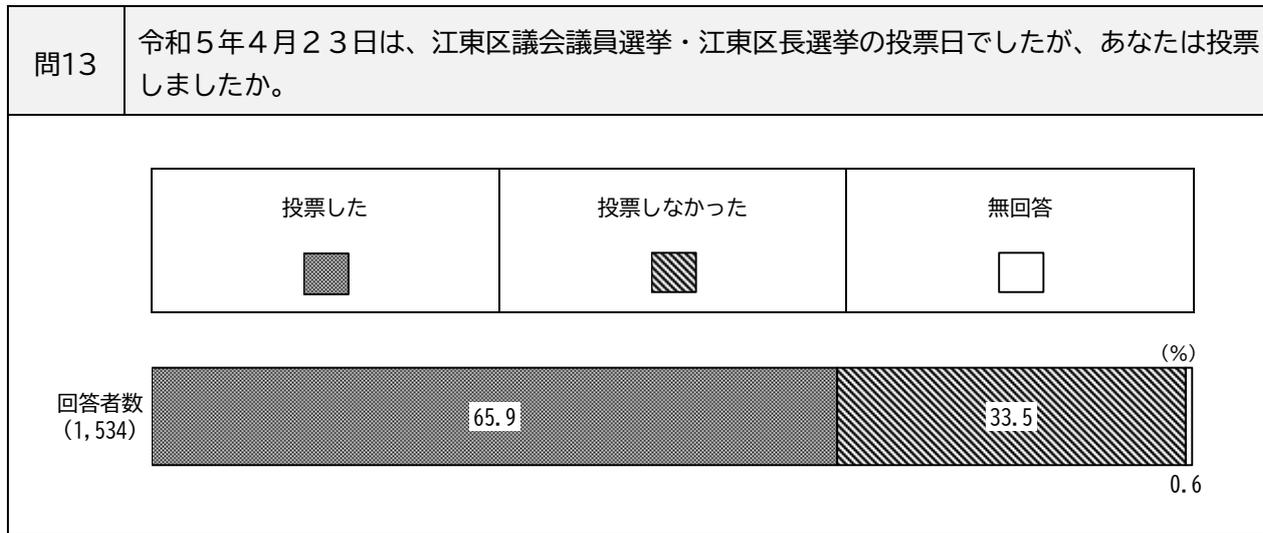


○自転車利用に関して区で重点的に取り組むべきだと思う施策について聞いたところ、「自転車が走りやすい道路整備」(59.1%)がほぼ6割で最も多く、次いで「自転車利用ルールやマナーの啓発」(54.3%)、「自転車駐車を増やす」(39.1%)と続いている。

5 選挙

(1) 江東区議会議員選挙・江東区長選挙の投票の有無

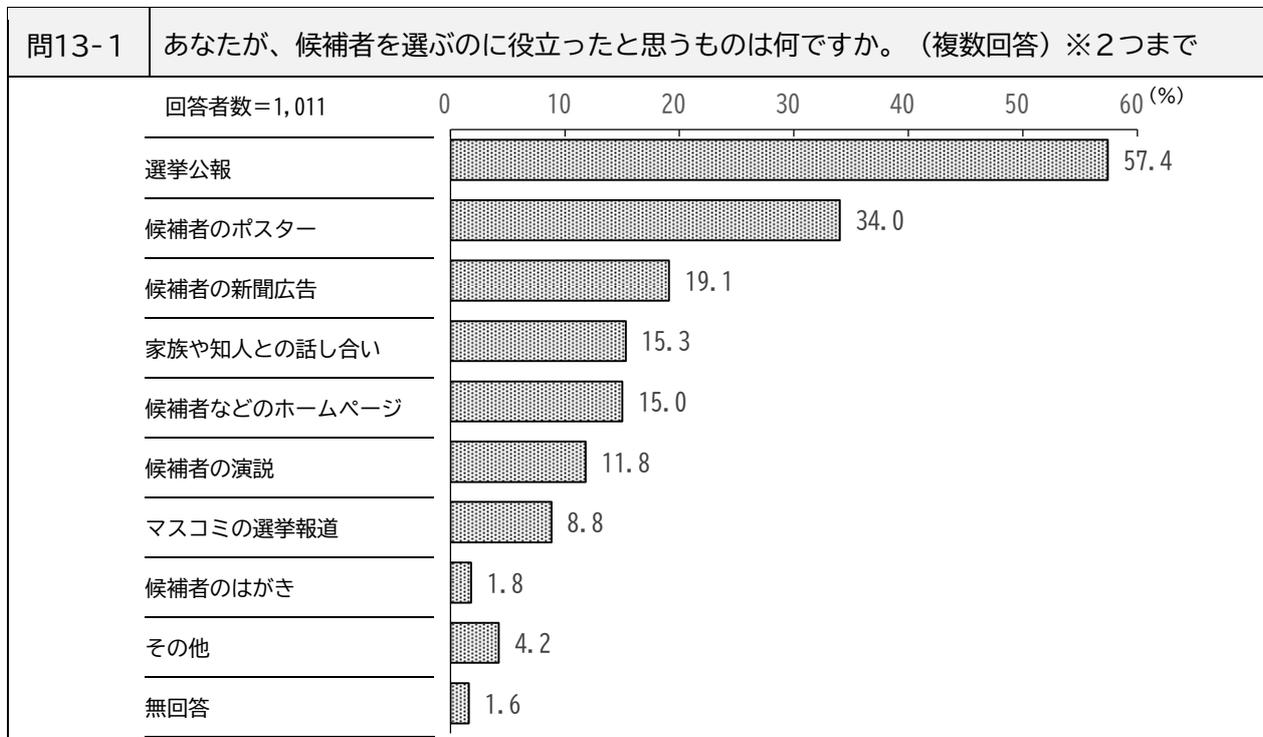
◇「投票した」が6割台半ば



○令和5年4月23日の江東区議会議員選挙・江東区長選挙に投票したかを聞いたところ、「投票した」（65.9%）は6割台半ばとなっている。なお、実際の江東区議会議員選挙の投票率は48.87%、江東区長選挙の投票率は48.86%であった。

(2) 候補者を選ぶのに役立ったと思うもの

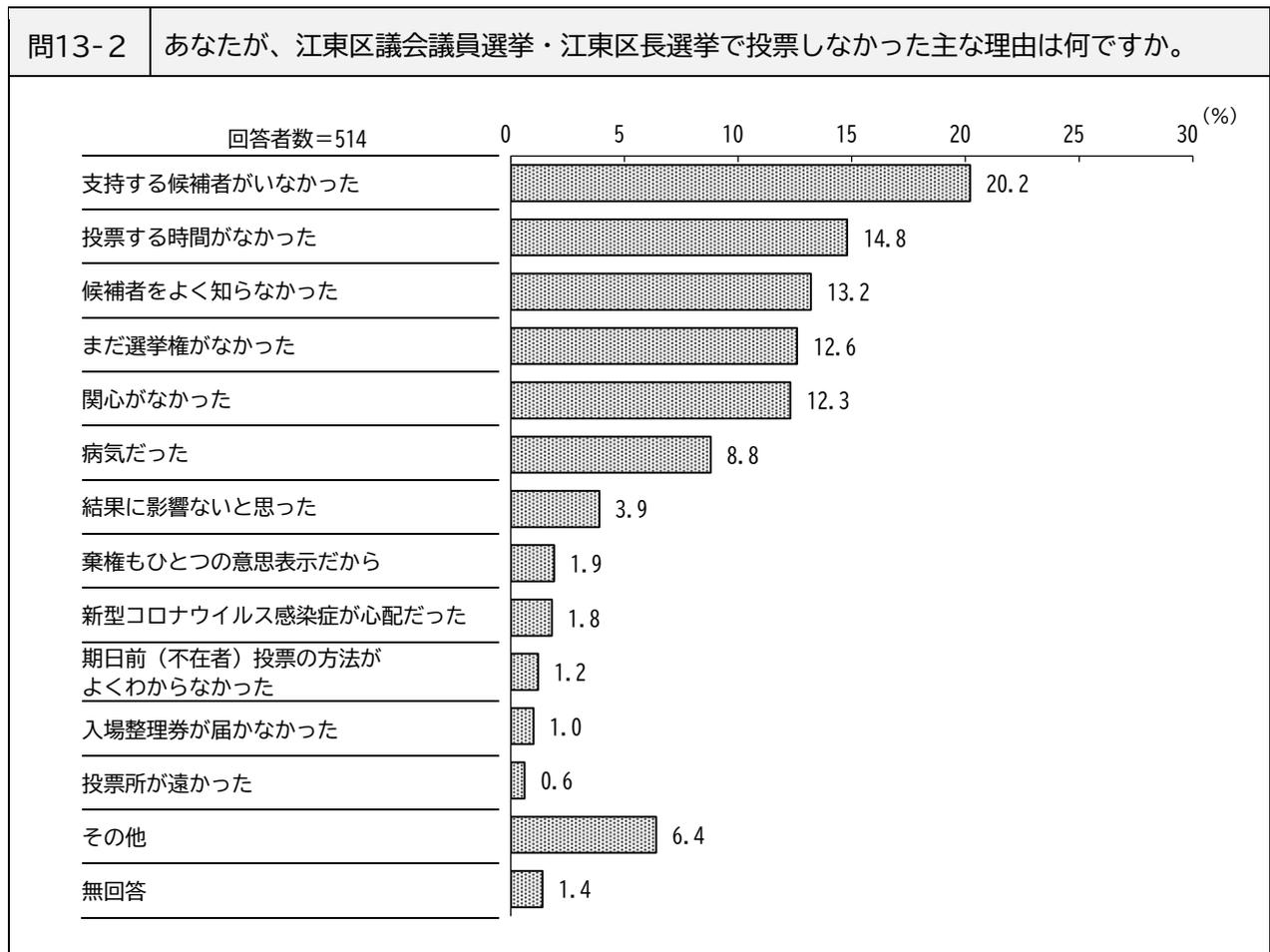
◇「選挙公報」が6割近く



○令和5年4月に行われた江東区議会議員選挙・江東区長選挙に「投票した」と答えた方（1,011人）に、候補者を選ぶのに役立ったと思うものは何か聞いたところ、「選挙公報」（57.4%）が6割近くで最も多く、次いで「候補者のポスター」（34.0%）、「候補者の新聞広告」（19.1%）と続いている。

(3) 投票しなかった理由

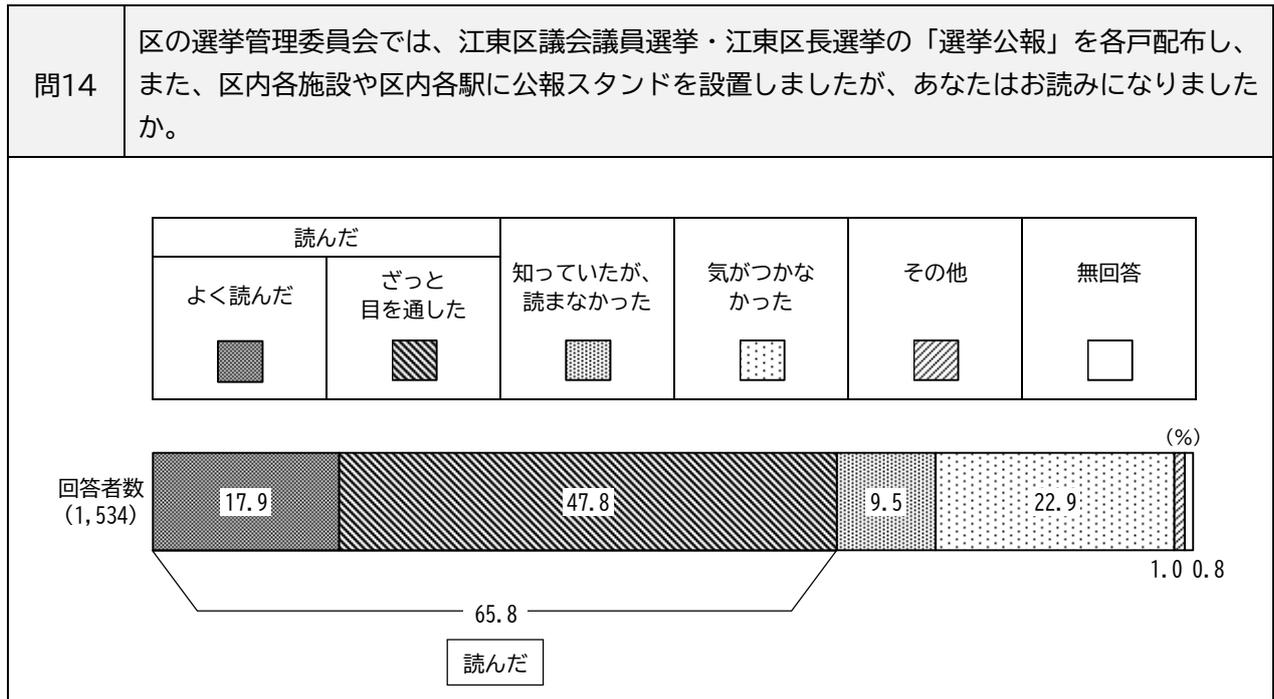
◇「支持する候補者がいなかった」が2割



○令和5年4月に行われた江東区議会議員選挙・江東区長選挙に「投票しなかった」と答えた方（514人）に、その理由を聞いたところ、「支持する候補者がいなかった」（20.2%）が2割で最も多く、次いで「投票する時間がなかった」（14.8%）、「候補者をよく知らなかった」（13.2%）と続いている。

(4) 「選挙公報」の閲読状況

◇「読んだ」は6割台半ば

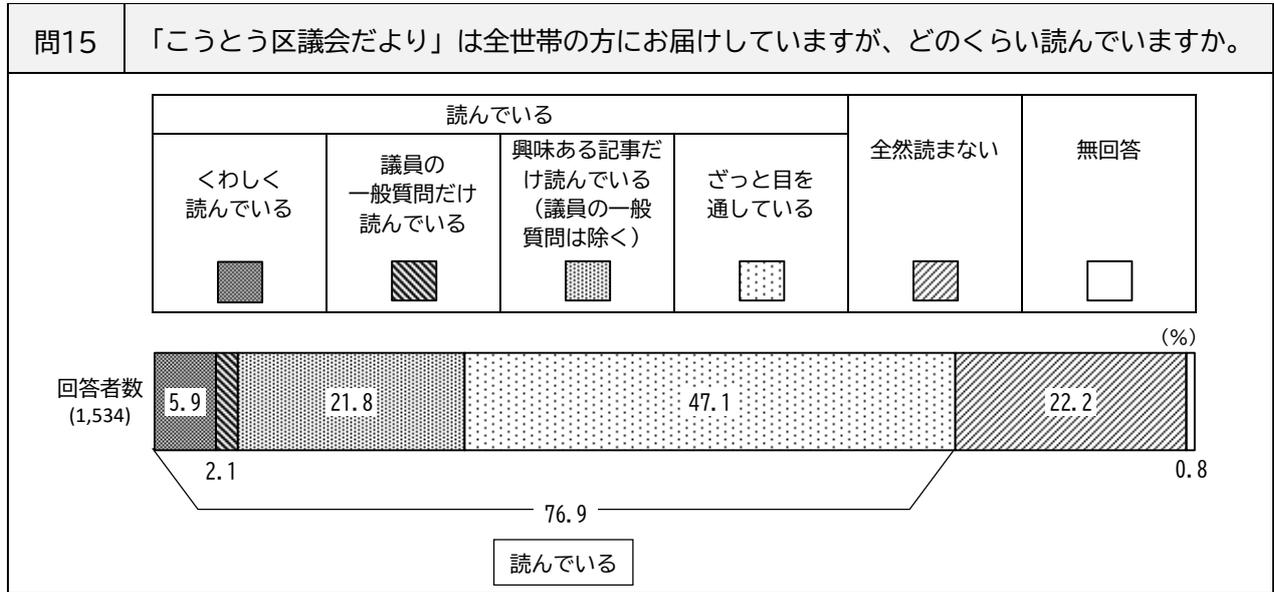


○江東区議会議員選挙・江東区長選挙の「選挙公報」を読んだか聞いたところ、「よく読んだ」(17.9%)と「ざっと目を通した」(47.8%)の2つを合わせた「読んだ」(65.8%)は6割台半ばとなっている。一方、「知っていたが、読まなかった」(9.5%)は1割未満、「気がつかなかった」(22.9%)は2割を超えている。

6 区議会

(1) 「こうとう区議会だより」の閲読状況

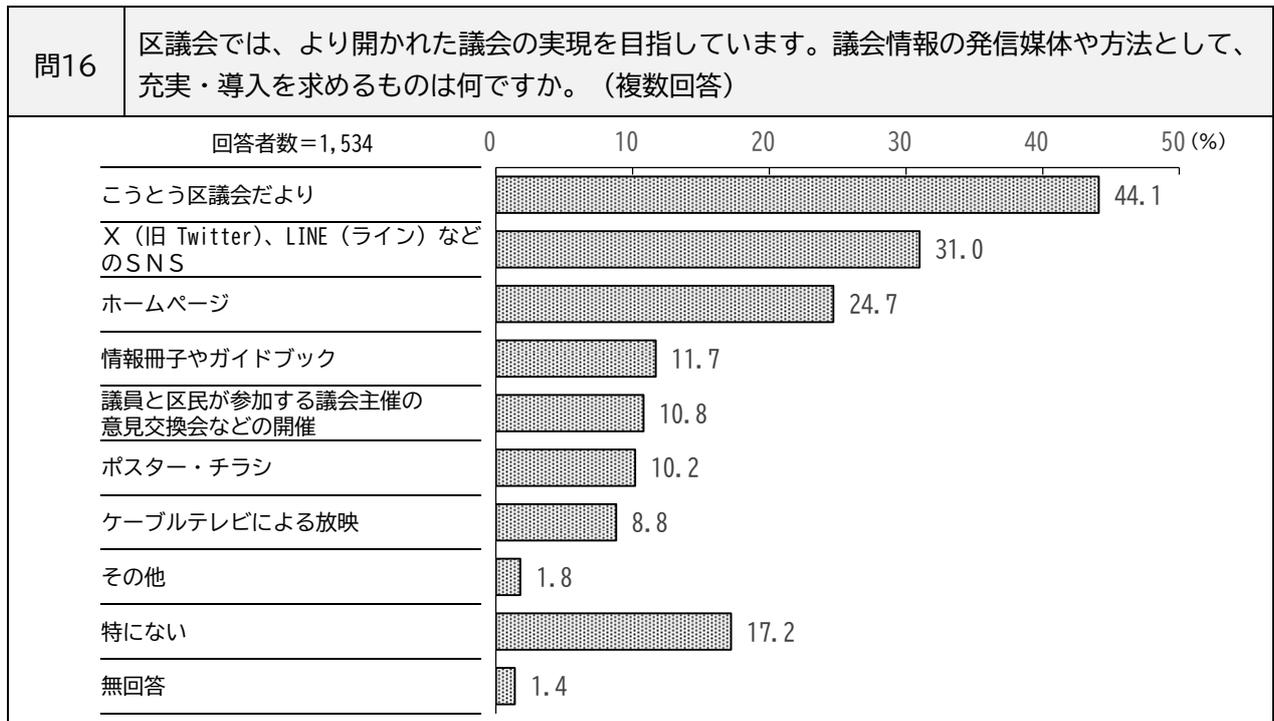
◇「読んでいます」は8割近く



○「こうとう区議会だより」をどのくらい読んでいますか聞いたところ、「くわしく読んでいます」(5.9%)、「議員の一般質問だけ読んでいます」(2.1%)、「興味ある記事だけ読んでいます(議員の一般質問は除く)」(21.8%)、「ざっと目を通している」(47.1%)の4つを合わせた「読んでいます」(76.9%)が8割近くとなっている。

(2) 充実・導入してほしい議会情報の発信媒体

◇「こうとう区議会だより」が4割台半ば

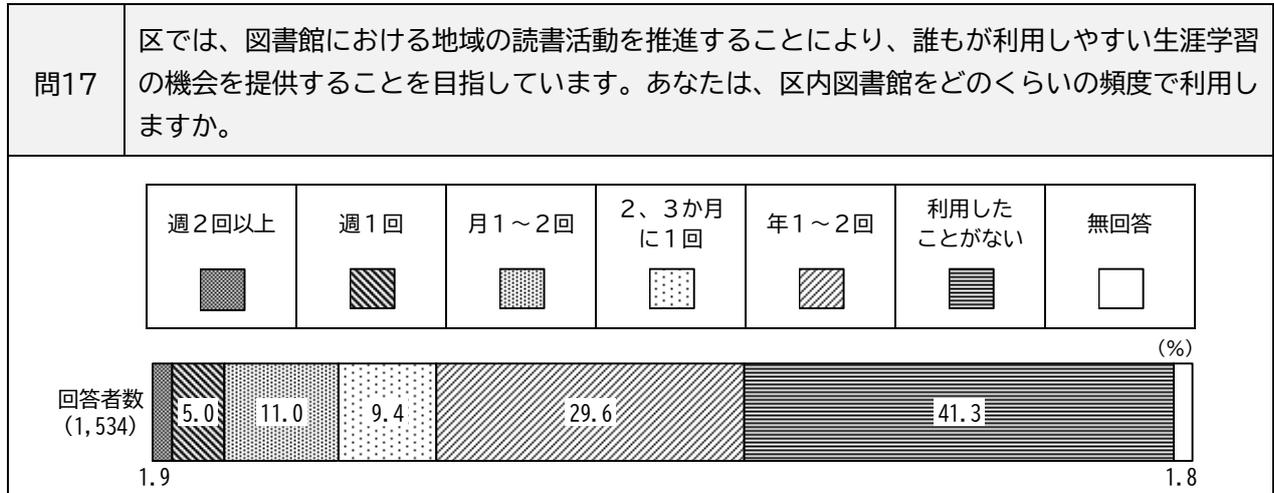


○充実・導入してほしい議会情報の発信媒体を聞いたところ、「こうとう区議会だより」(44.1%)が4割台半ばで最も多く、次いで「X (旧 Twitter)、LINE (ライン) などのSNS」(31.0%)、「ホームページ」(24.7%)と続いている。

7 図書館

(1) 区内図書館の利用頻度

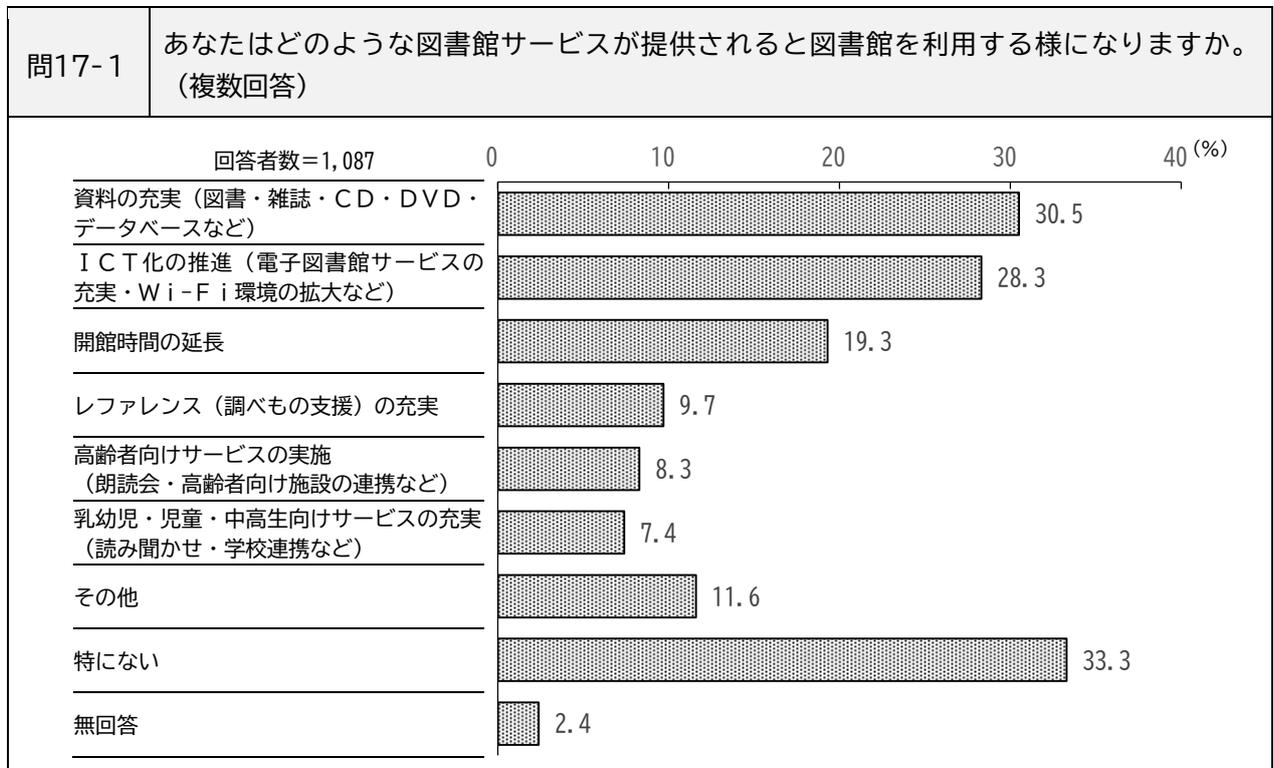
◇「年1～2回」が3割



○区内図書館の利用頻度を聞いたところ、「年1～2回」(29.6%)が3割となっている。一方、「利用したことがない」(41.3%)は4割を超えている。

(2) 図書館サービスへの要望

◇「資料の充実(図書・雑誌・CD・DVD・データベースなど)」がほぼ3割



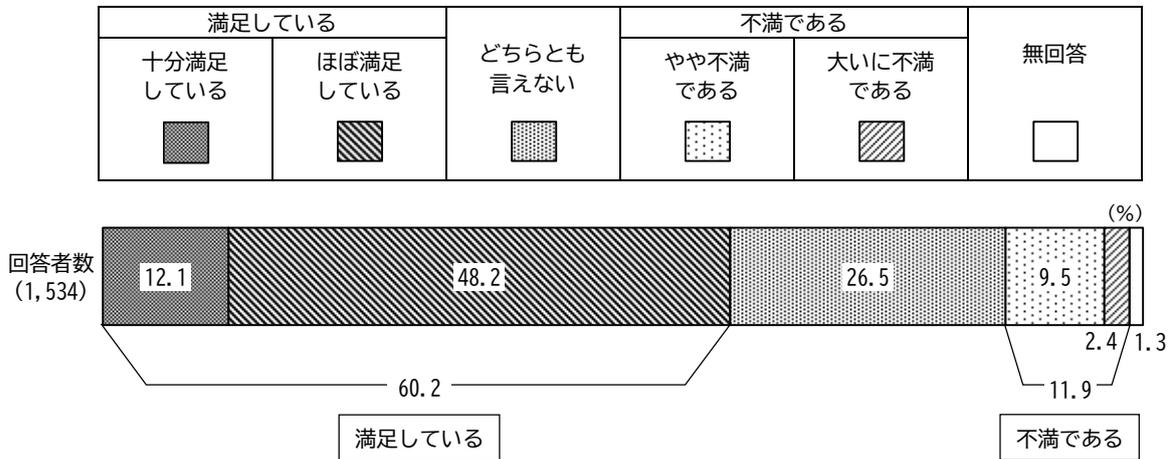
○区内図書館の利用頻度を、「年1～2回」か「利用したことがない」と答えた方(1,087人)に、どのようなサービスが提供されると図書館を利用するか聞いたところ、「資料の充実(図書・雑誌・CD・DVD・データベースなど)」(30.5%)がほぼ3割で最も多く、次いで「ICT化の推進(電子図書館サービスの充実・Wi-Fi環境の拡大など)」(28.3%)、「開館時間の延長」(19.3%)と続いている。

8 緑化推進

(1) 区内のみどりの満足度

◇「満足している」が6割

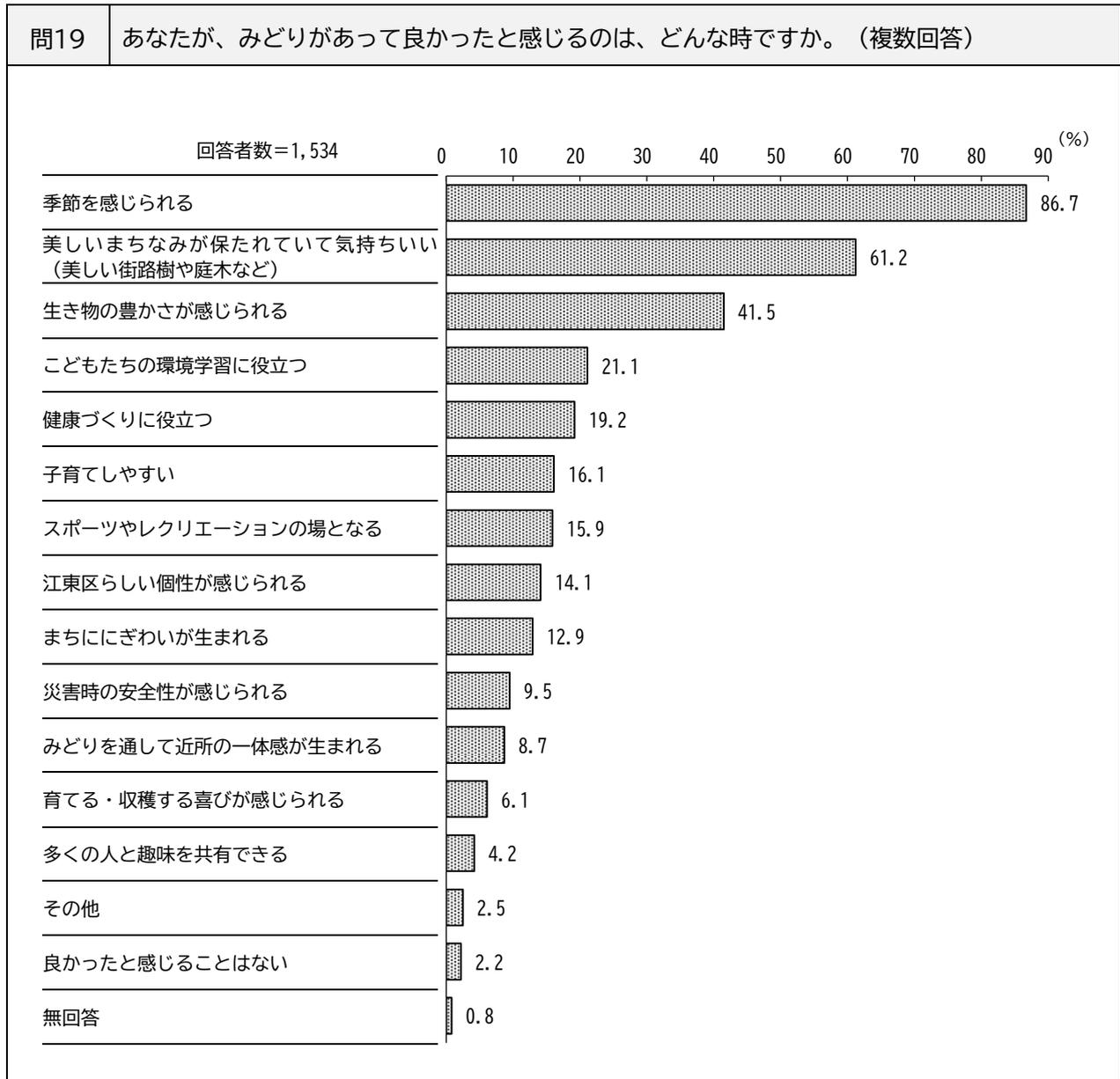
問18 あなたは、区内のみどりについて満足していますか。



○区内のみどりについて満足しているか聞いたところ、「十分満足している」（12.1%）と「ほぼ満足している」（48.2%）の2つを合わせた「満足している」（60.2%）は6割となっている。一方、「やや不満である」（9.5%）と「大いに不満である」（2.4%）の2つを合わせた「不満である」（11.9%）は1割を超えている。

(2) どんな時に、みどりがあって良かったと感じるか

◇「季節を感じられる」が9割近く



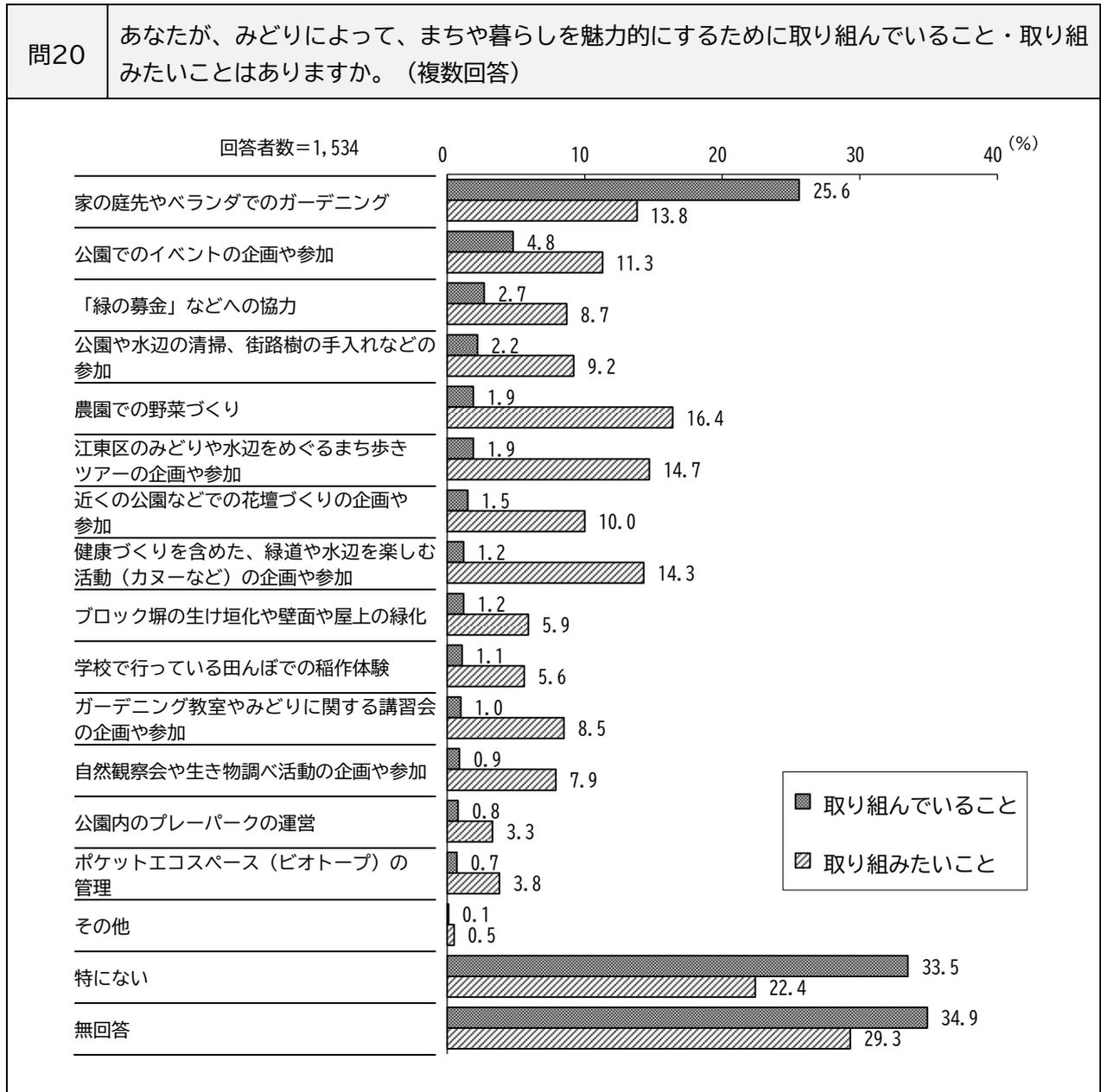
○みどりがあって良かったと感じるのは、どんな時か聞いたところ、「季節を感じられる」(86.7%)が9割近くで最も多く、次いで「美しいまちなみが保たれていて気持ちいい(美しい街路樹や庭木など)」(61.2%)、「生き物の豊かさが感じられる」(41.5%)と続いている。

(3) 取り組んでいる、または今後取り組みたいと思うみどりに関する事業

◇取り組んでいることでは、「家の庭先やベランダでのガーデニング」が2割台半ば

◇取り組みたいことでは、「農園での野菜づくり」が1割台半ば

第3章
調査結果の概要
8 緑化推進

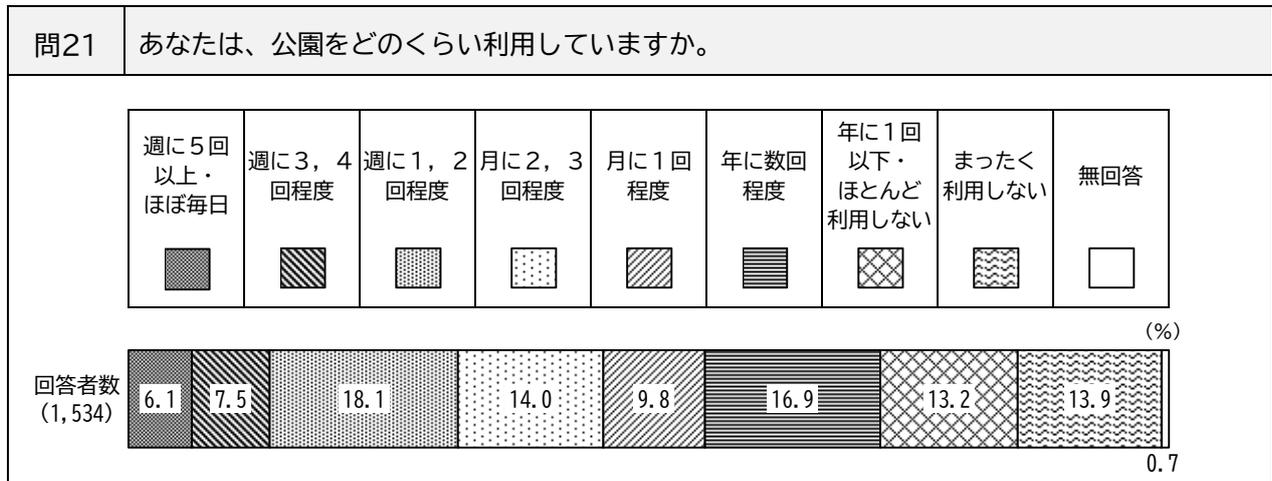


○みどりによって、まちや暮らしを魅力的にするために取り組んでいること・取り組みたいことはあるか聞いたところ、取り組んでいることでは、「家の庭先やベランダでのガーデニング」(25.6%)が2割台半ばで最も多く、次いで「公園でのイベントの企画や参加」(4.8%)、「『緑の募金』などへの協力」(2.7%)と続いている。一方、取り組みたいことでは、「農園での野菜づくり」(16.4%)が1割台半ばで最も多く、次いで「江東区のみどりや水辺をめぐるまち歩きツアーの企画や参加」(14.7%)、「健康づくりを含めた、緑道や水辺を楽しむ活動(カヌーなど)の企画や参加」(14.3%)と続いている。

9 公園

(1) 公園の利用頻度

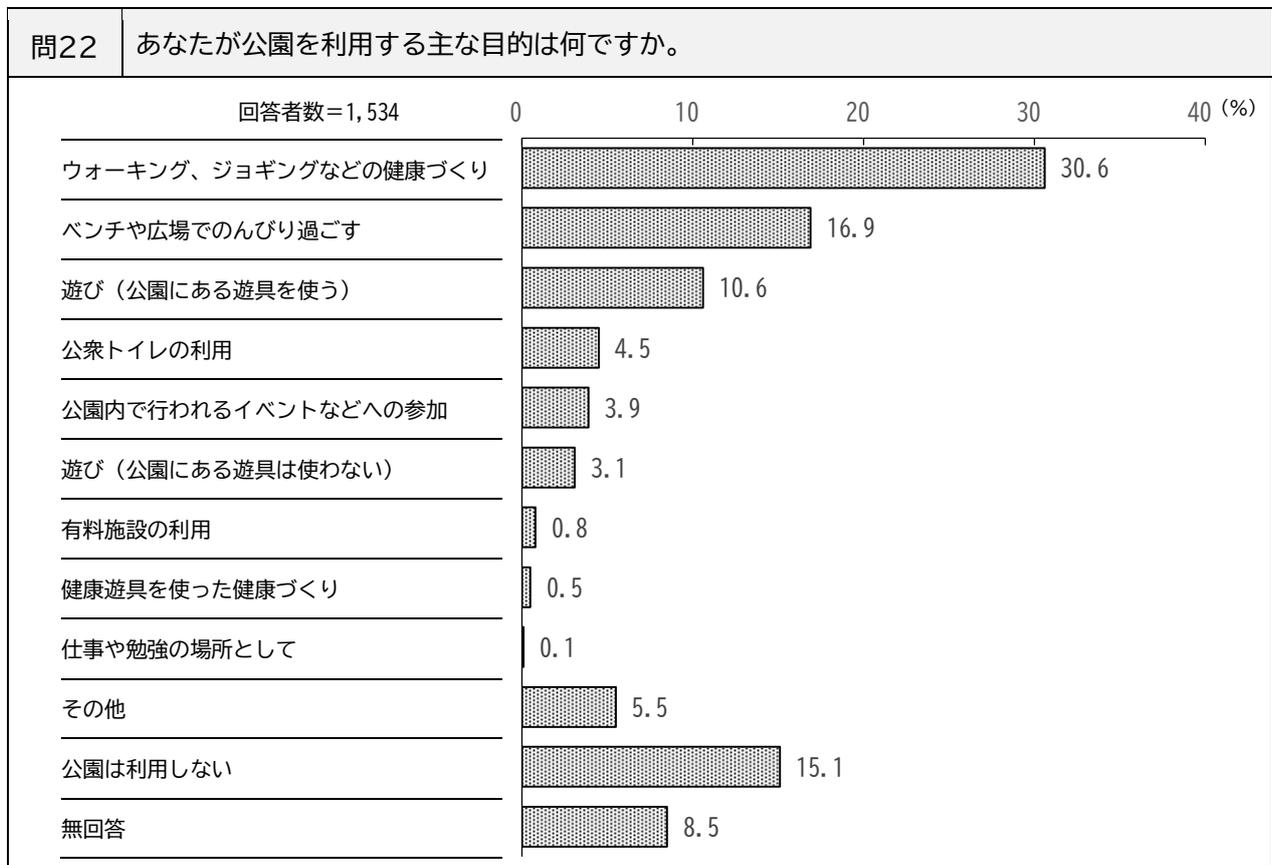
◇「週に1, 2回程度」が2割近く



○公園の利用頻度を聞いたところ、「週に1, 2回程度」(18.1%)が2割近くで最も多く、「週に5回以上・ほぼ毎日」～「週に1, 2回程度」を合わせると3割を超えている。

(2) 公園を利用する主な目的

◇「ウォーキング、ジョギングなどの健康づくり」がほぼ3割

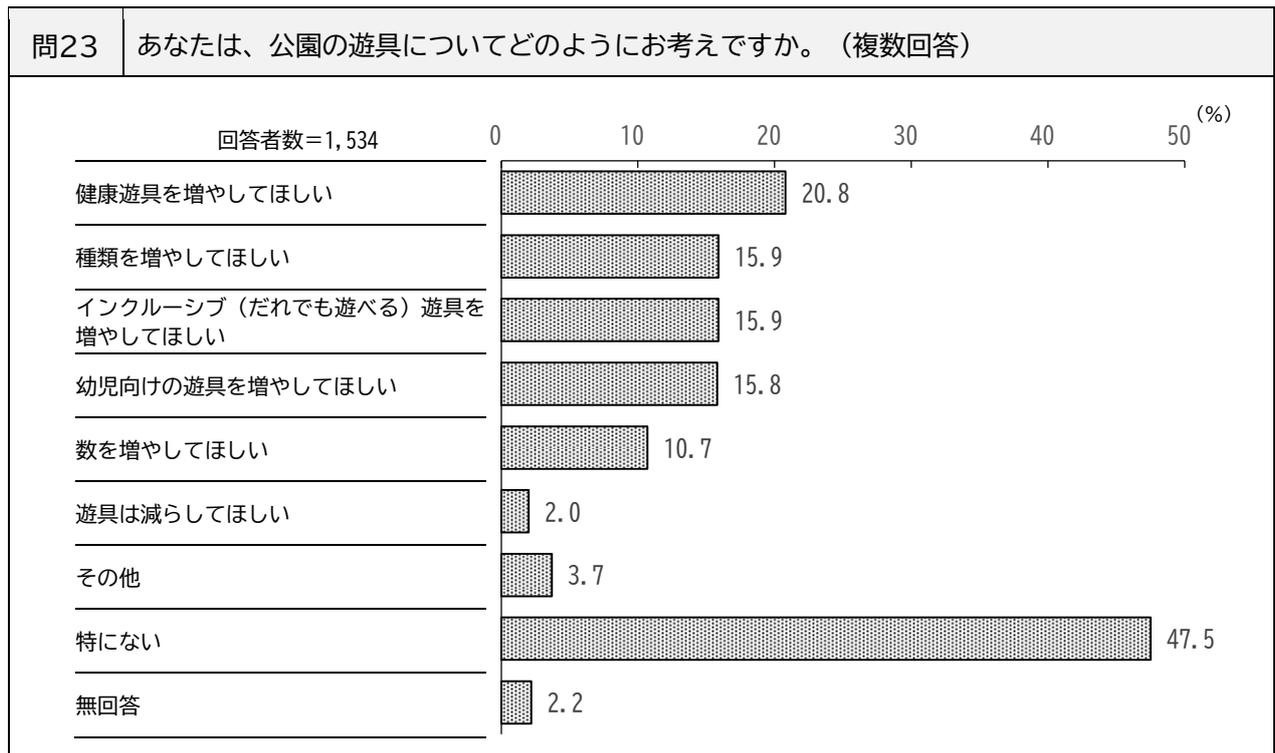


○公園を利用する主な目的を聞いたところ、「ウォーキング、ジョギングなどの健康づくり」(30.6%)がほぼ3割で最も多く、次いで「ベンチや広場でのんびり過ごす」(16.9%)、「遊び(公園にある遊具を使う)」(10.6%)と続いている。

第3章
調査結果の概要
9 公園

(3) 公園の遊具についての考え

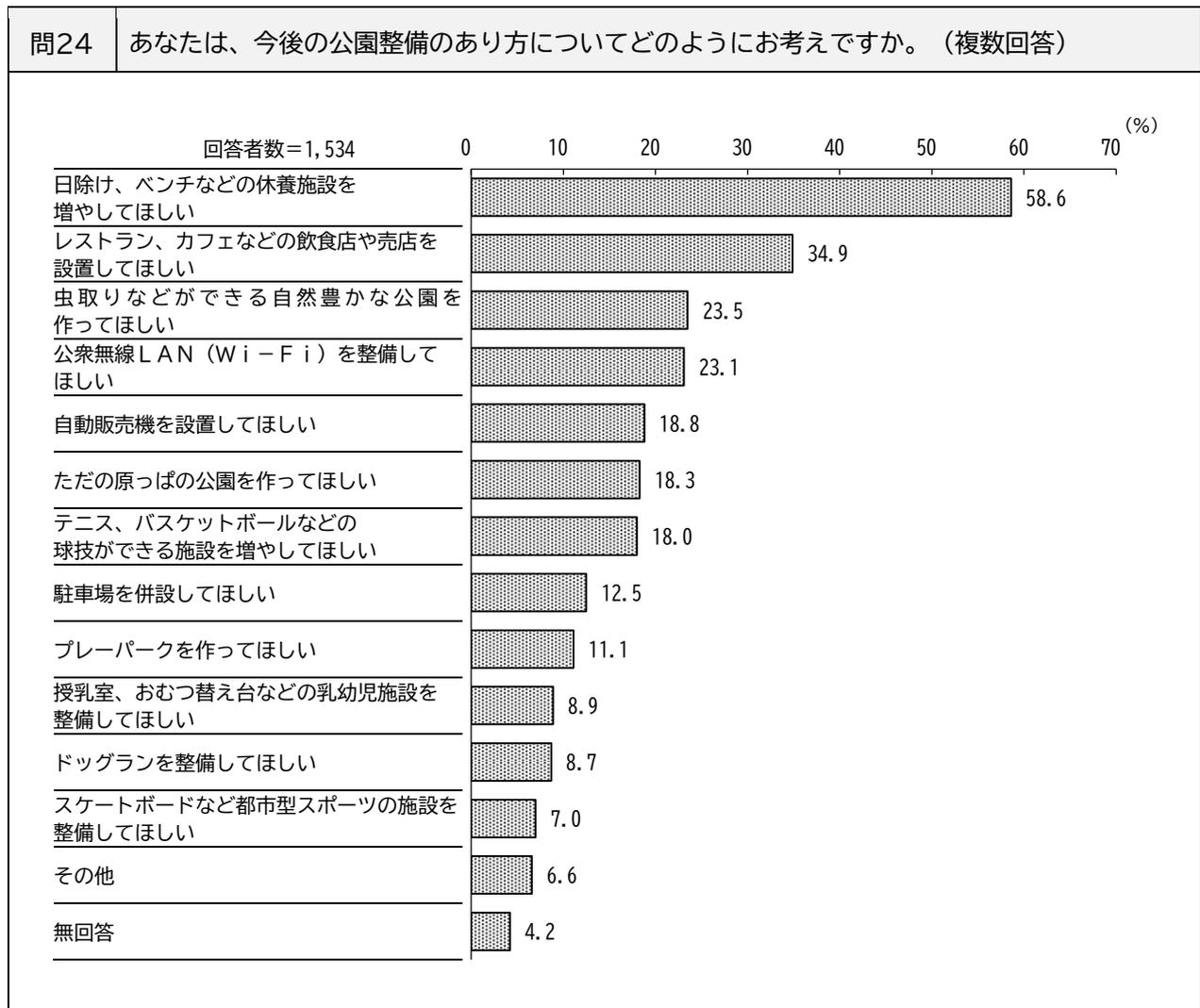
◇「健康遊具を増やしてほしい」がほぼ2割



○公園の遊具について聞いたところ、「健康遊具を増やしてほしい」(20.8%)がほぼ2割で最も多く、次いで「種類を増やしてほしい」(15.9%)、「インクルーシブ(だれでも遊べる)遊具を増やしてほしい」(15.9%)が並び、「幼児向けの遊具を増やしてほしい」(15.8%)と続いている。

(4) 公園整備のあり方についての考え

◇「日除け、ベンチなどの休養施設を増やしてほしい」が6割近く

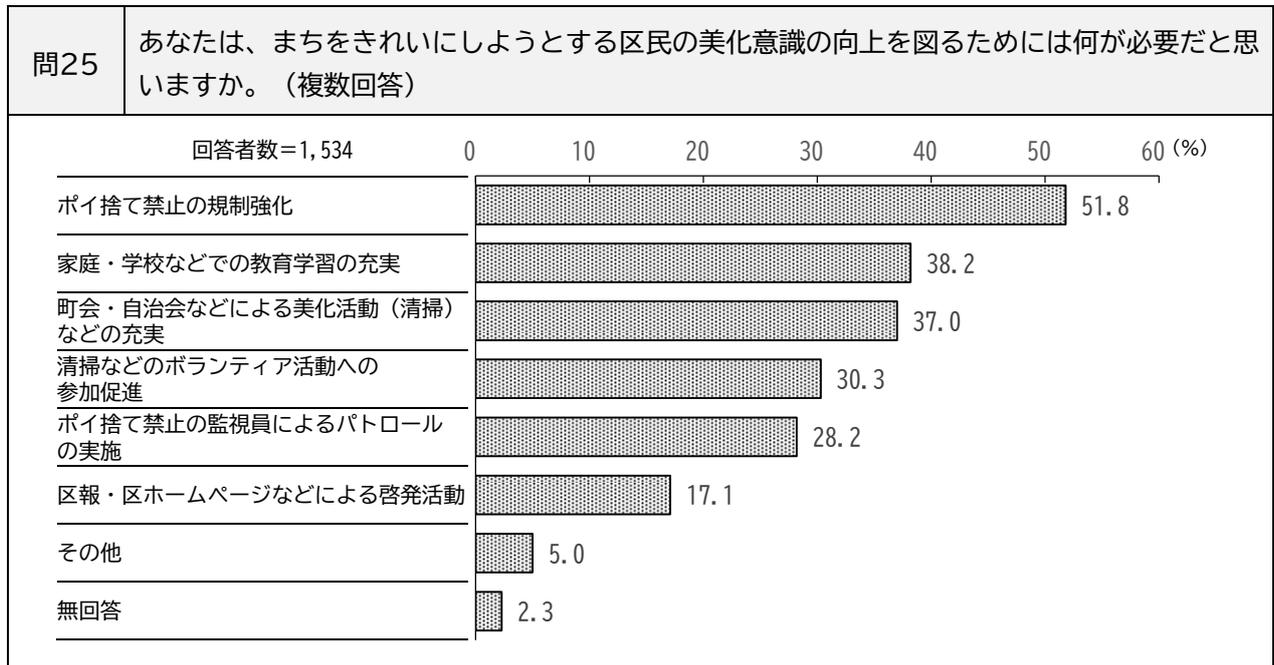


○今後の公園整備のあり方について聞いたところ、「日除け、ベンチなどの休養施設を増やしてほしい」（58.6%）が6割近くで最も多く、次いで「レストラン、カフェなどの飲食店や売店を設置してほしい」（34.9%）、「虫取りなどができる自然豊かな公園を作してほしい」（23.5%）、「公衆無線LAN（Wi-Fi）を整備してほしい」（23.1%）と続いている。

10 環境

(1) 区民の環境美化意識の向上を図るために必要だと思うもの

◇「ポイ捨て禁止の規制強化」が5割を超える

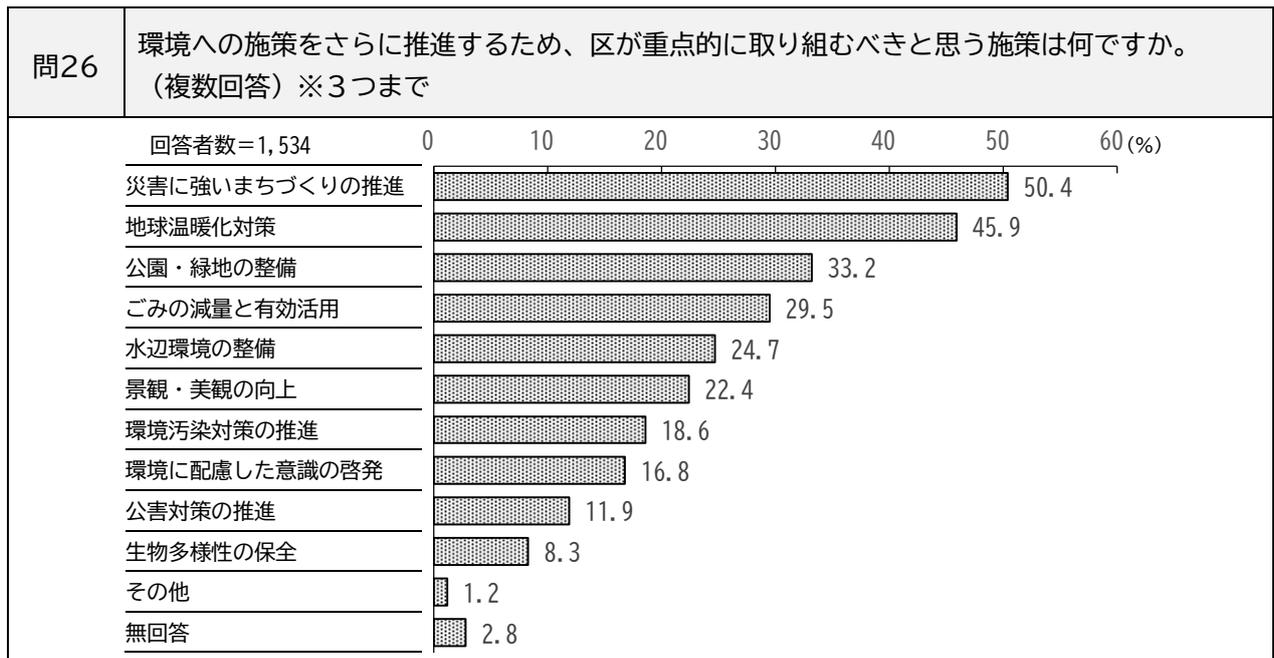


○区民の美化意識の向上を図るためには何が必要か聞いたところ、「ポイ捨て禁止の規制強化」（51.8%）が5割を超えて最も多く、次いで「家庭・学校などでの教育学習の充実」（38.2%）、「町会・自治会などによる美化活動（清掃）などの充実」（37.0%）と続いている。

(2) 環境への施策を推進するために、区が重点的に取り組むべき施策

新規

◇「災害に強いまちづくりの推進」が5割

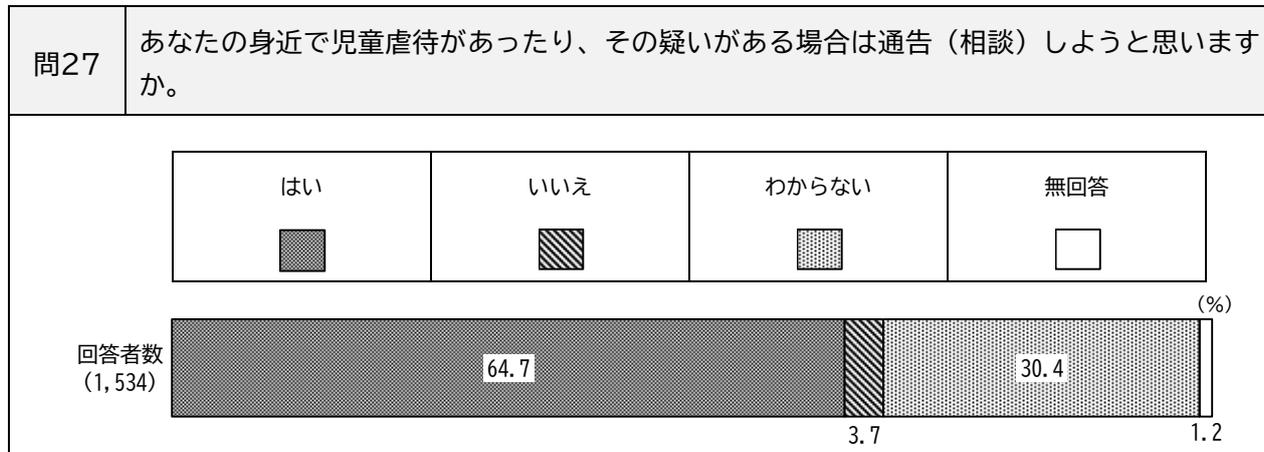


○環境への施策を推進するために区が重点的に取り組むべきと思う施策を聞いたところ、「災害に強いまちづくりの推進」（50.4%）が5割で最も多く、次いで「地球温暖化対策」（45.9%）、「公園・緑地の整備」（33.2%）と続いている。

11 児童虐待

(1) 身近で児童虐待があった場合の通告（相談）の有無

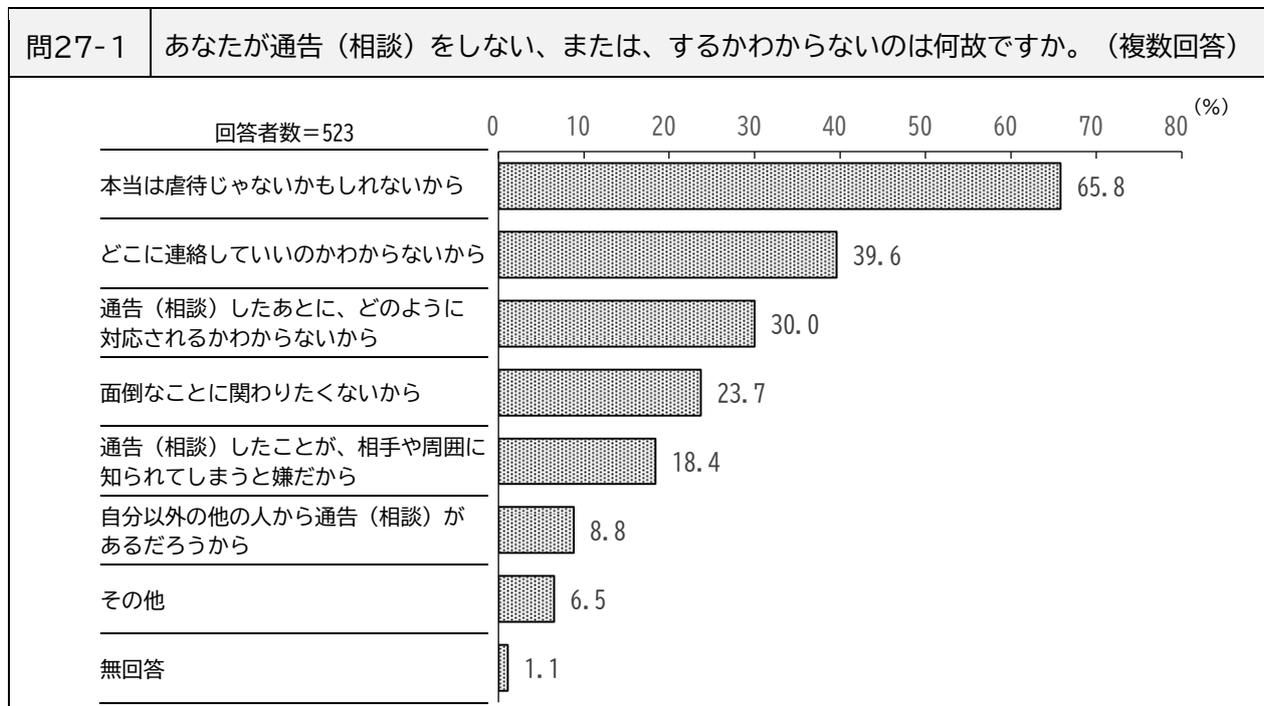
◇「通告（相談）する」が6割台半ば



○身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合は通告（相談）するか聞いたところ、「はい」（64.7%）が6割台半ば、「いいえ」（3.7%）はわずかとなっている。また、「わからない」（30.4%）は3割となっている。

(2) 通告（相談）をしない、または、するかわからない理由

◇「本当は虐待じゃないかもしれないから」が6割台半ば

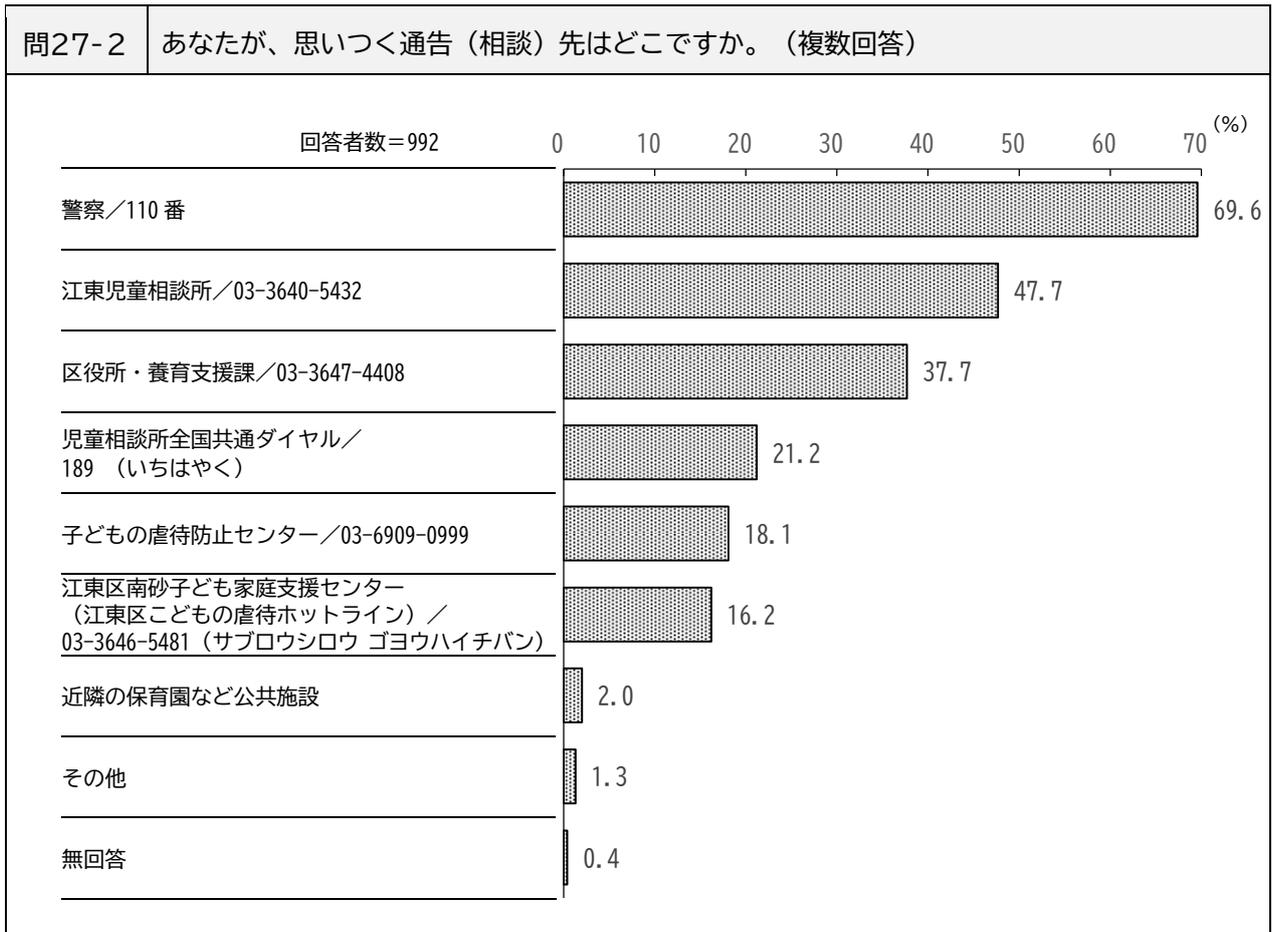


○身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合に、通告（相談）をしない、または、するかわからないと答えた方（523人）に、その理由を聞いたところ、「本当は虐待じゃないかもしれないから」（65.8%）が6割台半ばで最も多く、次いで「どこに連絡していいのかわからないから」（39.6%）、「通告（相談）したあとに、どのように対応されるかわからないから」（30.0%）と続いている。

第3章 調査結果の概要 11 児童虐待

(3) 思いつく通告（相談）先

◇「警察／110番」が7割

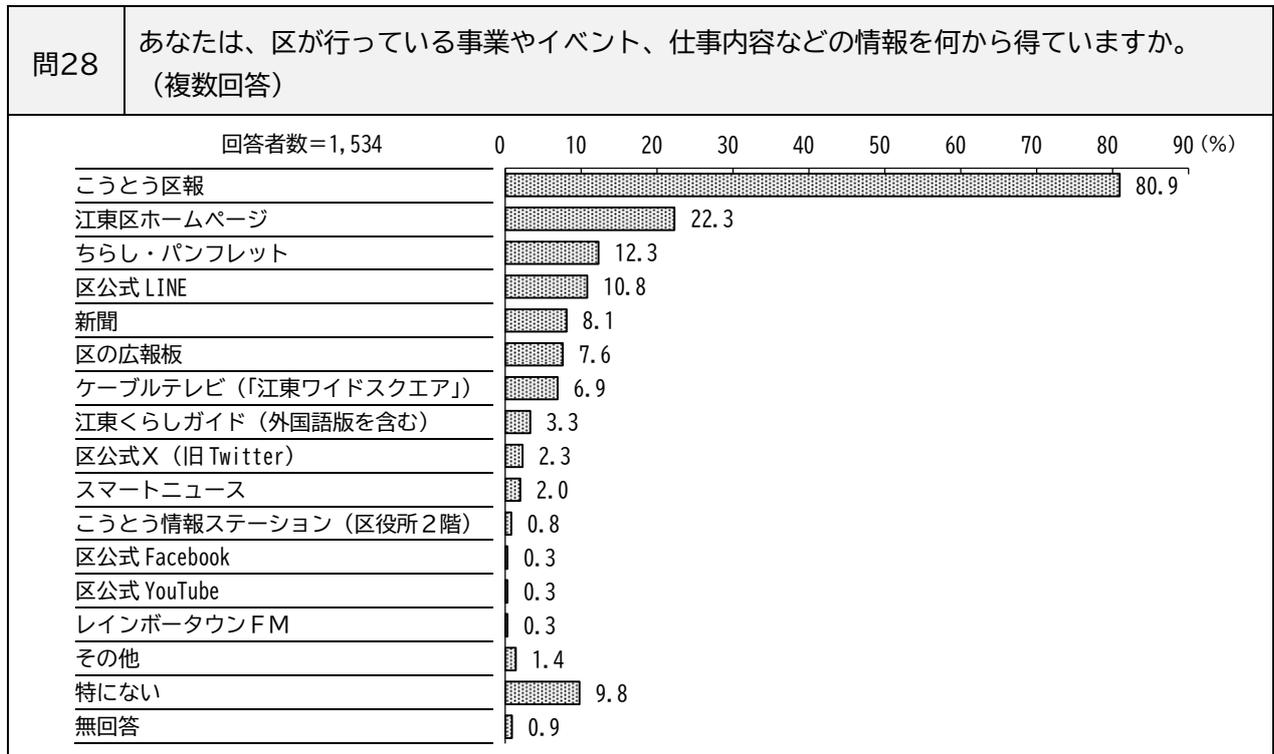


○身近で児童虐待があったり、その疑いがある場合に、通告（相談）をすると答えた方（992人）に、思いつく通告先を聞いたところ、「警察／110番」（69.6%）が7割で最も多く、次いで「江東児童相談所／03-3640-5432」（47.7%）、「区役所・養育支援課／03-3647-4408」（37.7%）と続いている。

12 広報

(1) 区が行っている事業やイベント、仕事内容などの認知媒体

◇「こうとう区報」がほぼ8割

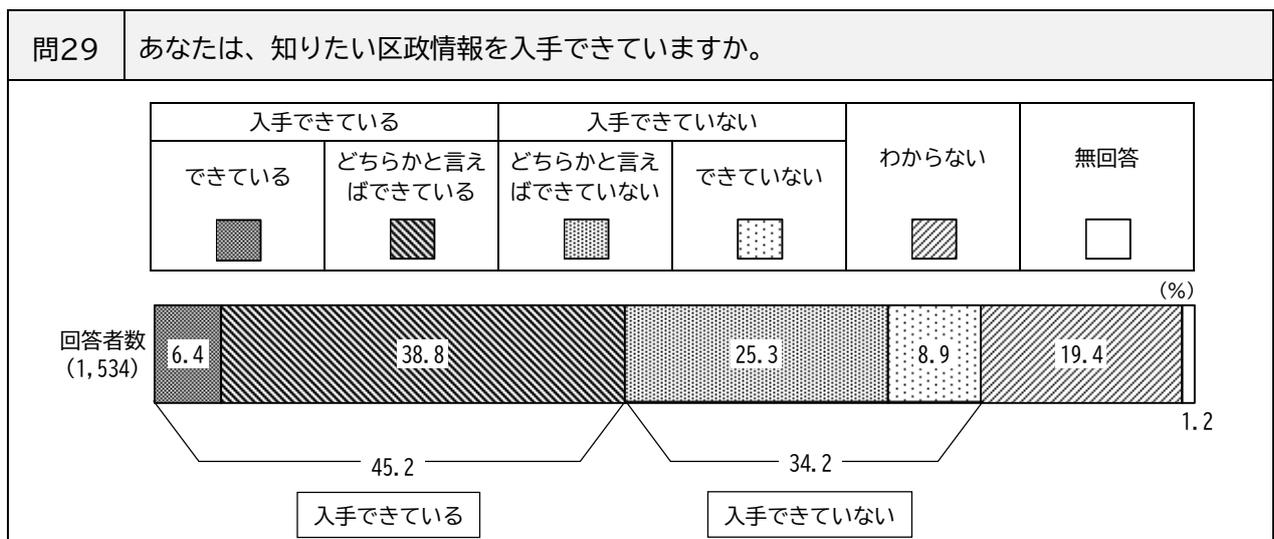


○区が行っている事業やイベント、仕事内容などの情報を何から得ているか聞いたところ、「こうとう区報」(80.9%)がほぼ8割で最も多く、次いで「江東区ホームページ」(22.3%)、「ちらし・パンフレット」(12.3%)と続いている。

(2) 区政情報の入手状況

新規

◇「入手できている」は4割台半ば

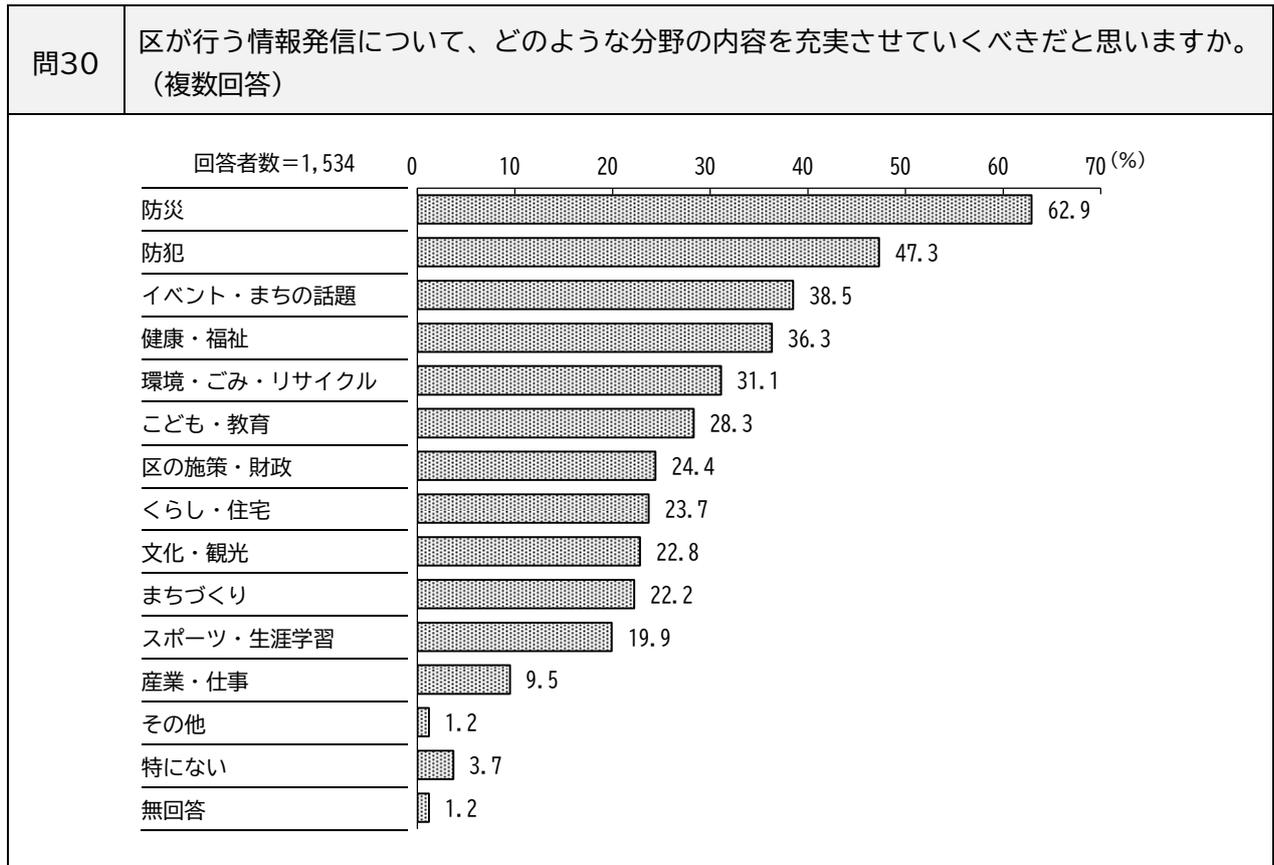


○知りたい区政情報を入手できているか聞いたところ、「できている」(6.4%)と「どちらかと言えればできている」(38.8%)の2つを合わせた「入手できている」(45.2%)は4割台半ばとなっている。一方、「どちらかと言えればできていない」(25.3%)、「できていない」(8.9%)を合わせた「入手できていない」(34.2%)は3割台半ばとなっている。

(3) 充実させるべき区の情報発信の分野

新規

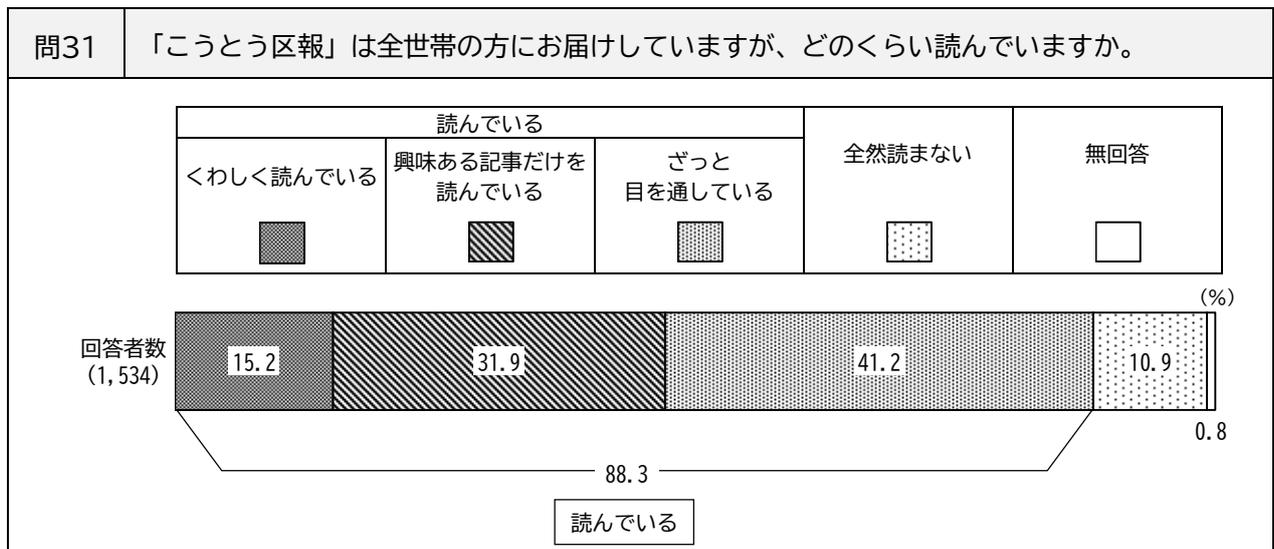
◇「防災」が6割を超える



○区が行う情報発信について内容を充実させていくべき分野を聞いたところ、「防災」(62.9%)が6割を超えて最も多く、次いで「防犯」(47.3%)、「イベント・まちの話題」(38.5%)と続いている。

(4) 「こうとう区報」の閲読状況

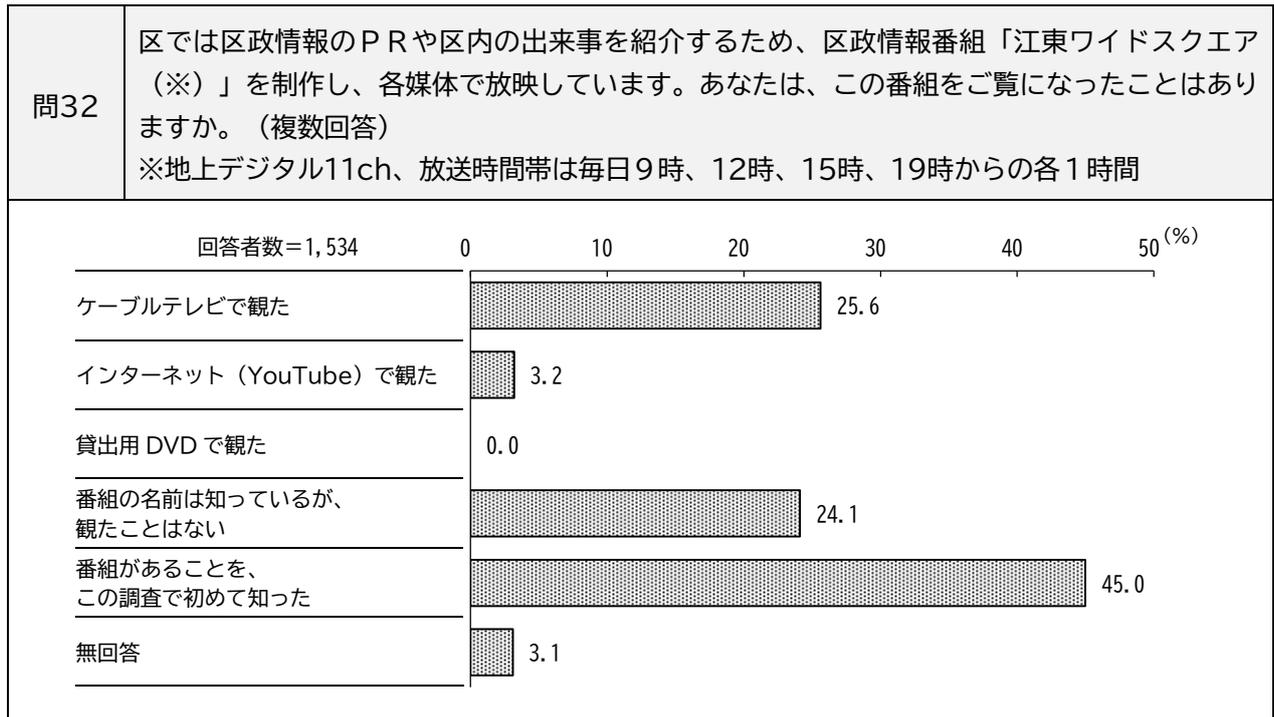
◇「読んでいる」は9割近く



○「こうとう区報」をどのくらい読んでいるか聞いたところ、「くわしく読んでいる」(15.2%)、「興味ある記事だけを読んでいる」(31.9%)、「ざっと目を通している」(41.2%)の3つを合わせた「読んでいる」(88.3%)が9割近くとなっている。

(5) 「江東ワイドスクエア」の視聴状況

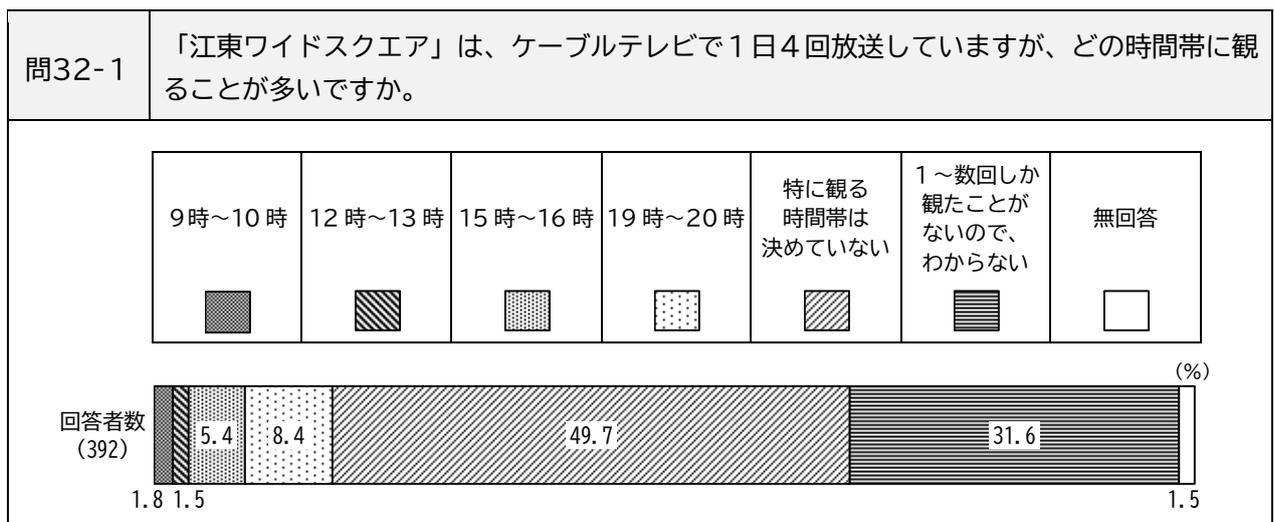
◇「ケーブルテレビで観た」が2割台半ば



○「江東ワイドスクエア」を観たことがあるか聞いたところ、観た中では、「ケーブルテレビで観た」（25.6%）が2割台半ばで最も多い。一方、「番組の名前は知っているが、観たことはない」（24.1%）も2割台半ば、「番組があることを、この調査で初めて知った」（45.0%）が4割台半ばとなっている。

(6) 「江東ワイドスクエア」の視聴時間帯

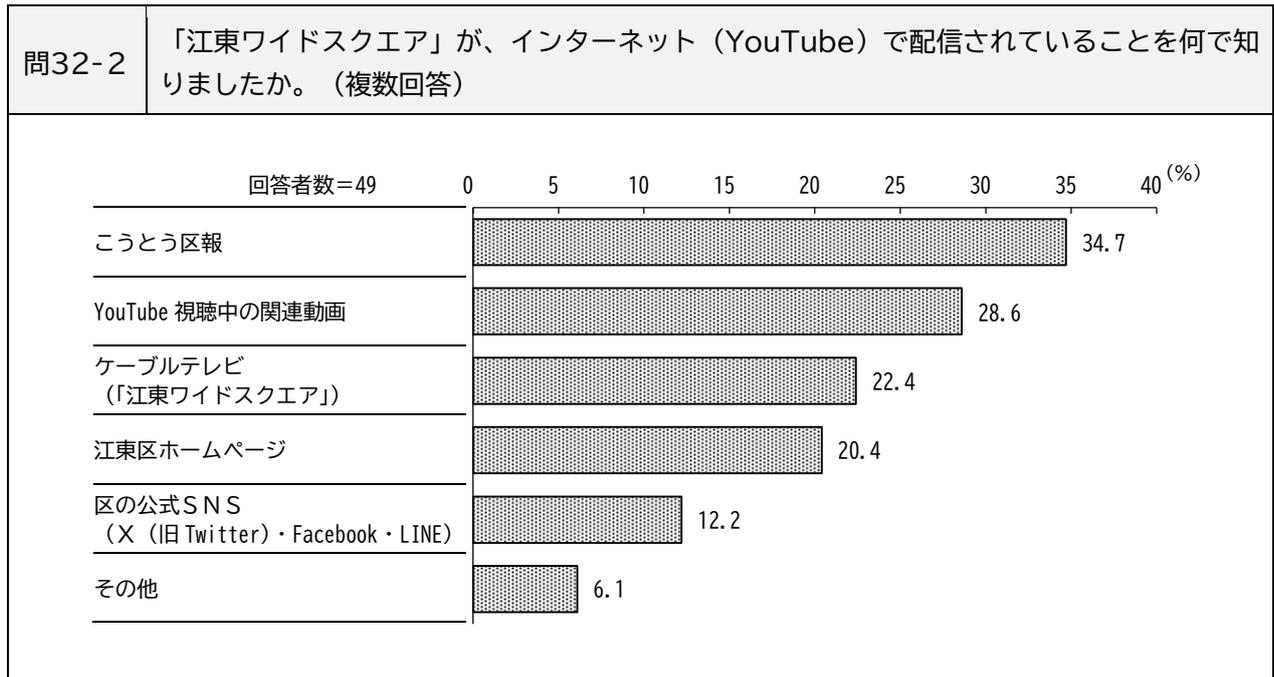
◇「特に観る時間帯は決めていない」が5割



○「江東ワイドスクエア」をケーブルテレビで観たことがあると答えた方（392人）に、どの時間帯に観ることが多いかを聞いたところ、「特に観る時間帯は決めていない」（49.7%）が5割で最も多く、次いで「1～数回しか観たことがないので、わからない」（31.6%）、「19時～20時」（8.4%）と続いている。

(7) 「江東ワイドスクエア」インターネット配信の認知媒体

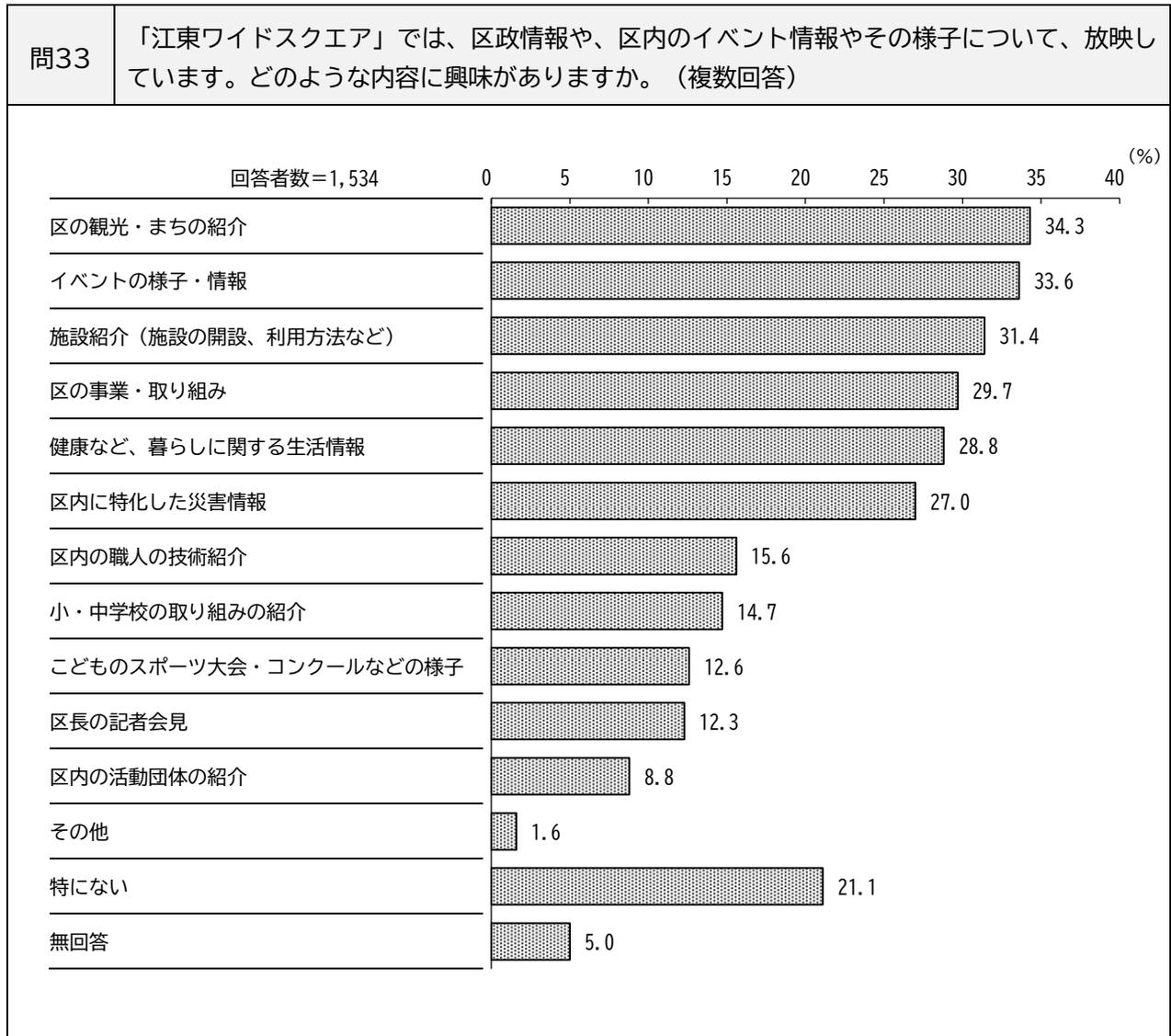
◇「こうとう区報」が3割台半ば



○「江東ワイドスクエア」をインターネットで観たことがあると答えた方（49人）に、インターネットで配信されていることを何で知ったかを聞いたところ、「こうとう区報」（34.7%）が3割台半ばで最も多く、次いで「YouTube 視聴中の関連動画」（28.6%）、「ケーブルテレビ（「江東ワイドスクエア」）」（22.4%）と続いている。

(8) 「江東ワイドスクエア」で興味のある内容

◇「区の観光・まちの紹介」が3割台半ば

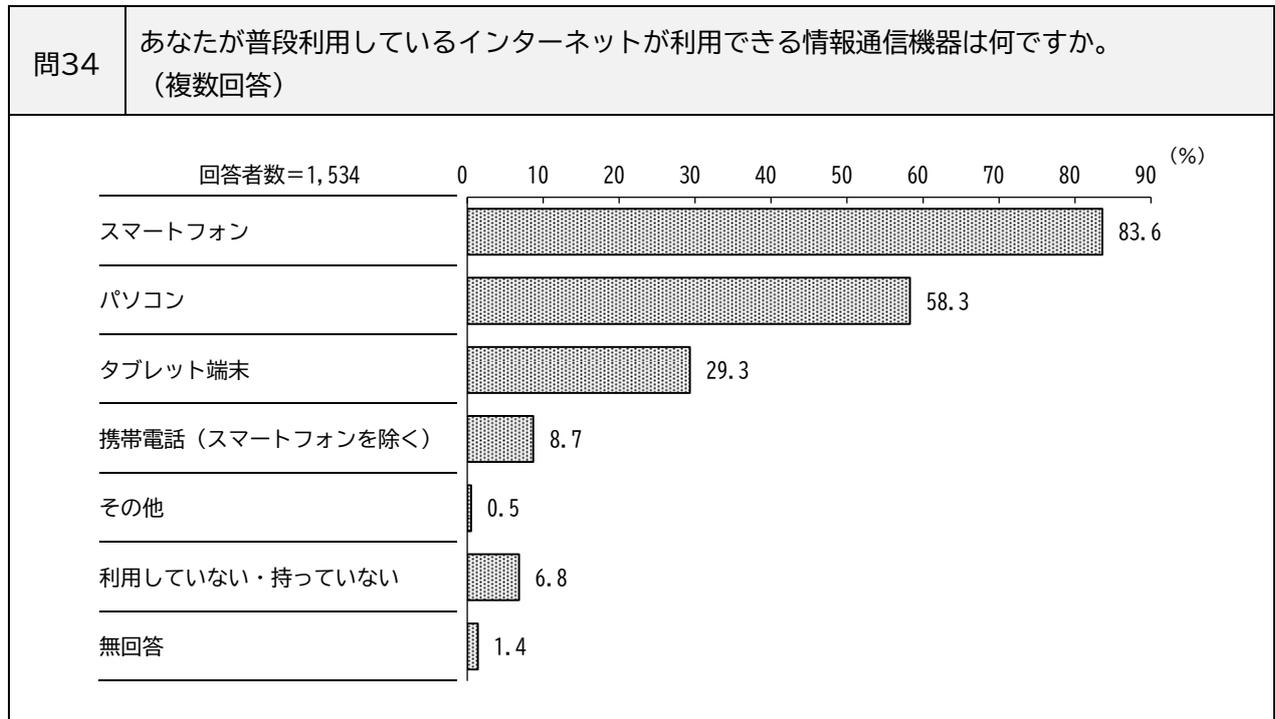


○「江東ワイドスクエア」で、どのような内容に興味があるかを聞いたところ、「区の観光・まちの紹介」(34.3%)が3割台半ばで最も多く、次いで「イベントの様子・情報」(33.6%)、「施設紹介(施設の開設、利用方法など)」(31.4%)と続いている。

13 DX・ICT

(1) インターネットが利用できる情報通信機器の保有状況

◇「スマートフォン」が8割を超える

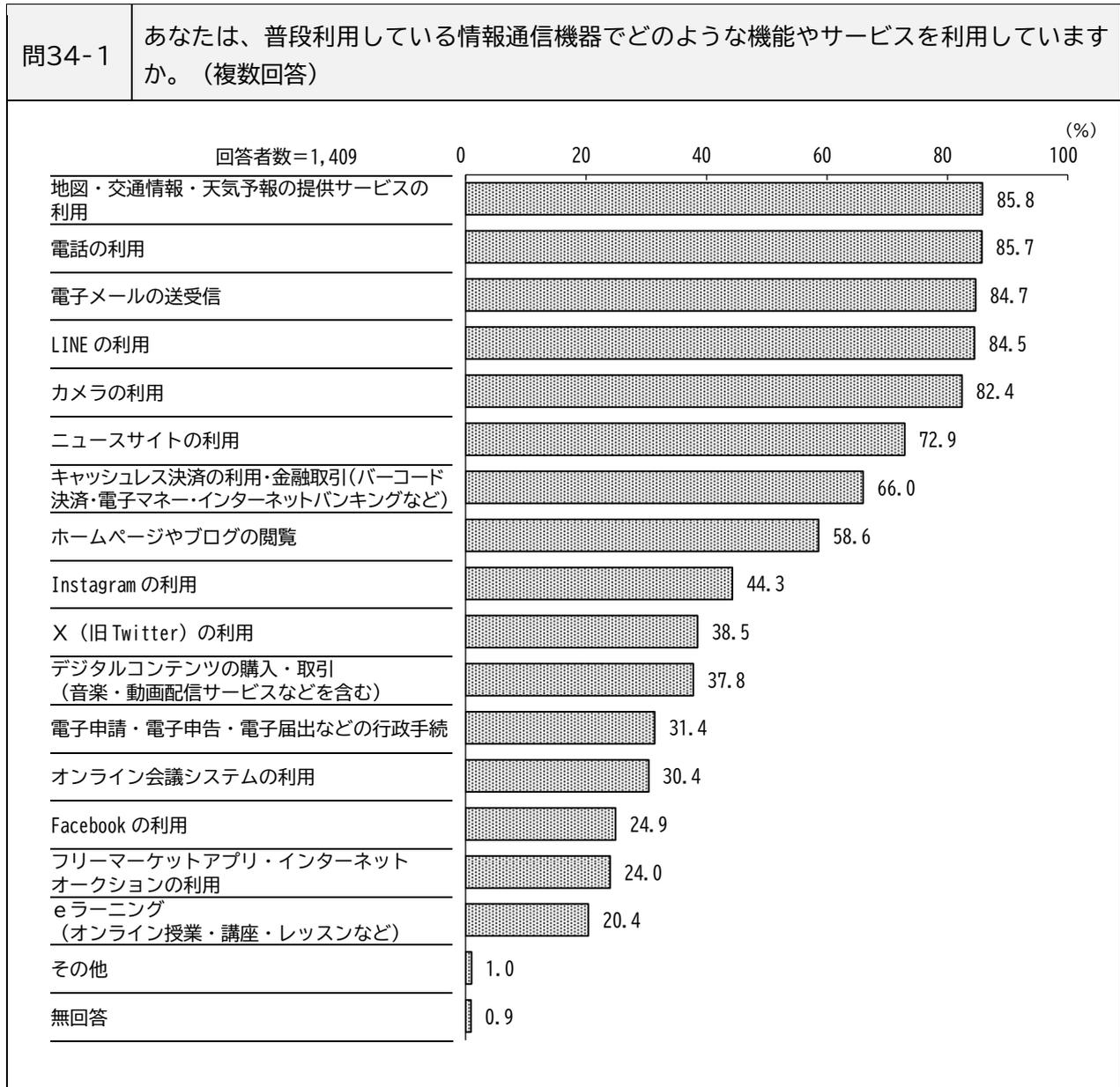


○インターネットが利用できる情報通信機器の保有状況を聞いたところ、「スマートフォン」(83.6%)が8割を超えて最も多く、次いで「パソコン」(58.3%)、「タブレット端末」(29.3%)と続いている。一方、「利用していない・持っていない」(6.8%)は1割未満となっている。

(2) 情報通信機器で利用している機能やサービス

新規

◇「地図・交通情報・天気予報の提供サービスの利用」、「電話の利用」、「電子メールの送受信」、「LINE の利用」が8割台半ば

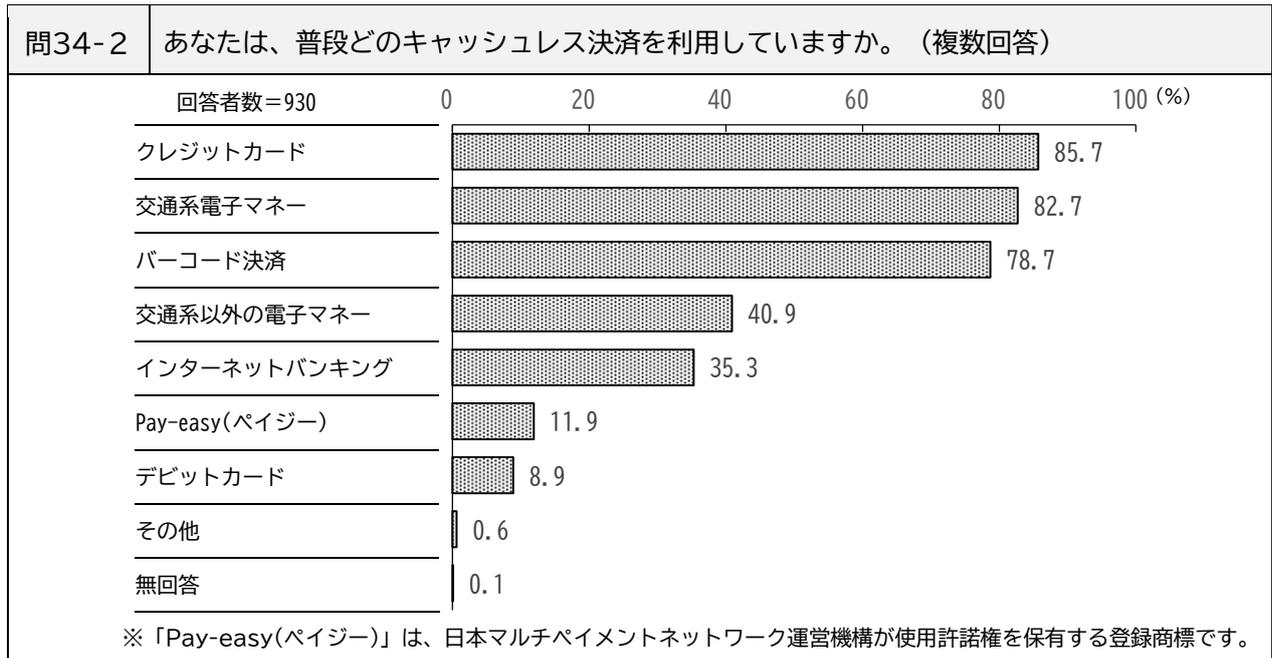


○インターネットが利用できる情報通信機器を利用していると答えた方(1,409人)に、どのような機能やサービスを利用しているか聞いたところ、「地図・交通情報・天気予報の提供サービスの利用」(85.8%)、「電話の利用」(85.7%)、「電子メールの送受信」(84.7%)、「LINE の利用」(84.5%)が8割台半ばとなっている。

(3) 利用しているキャッシュレス決済

新規

◇「クレジットカード」が8割台半ば

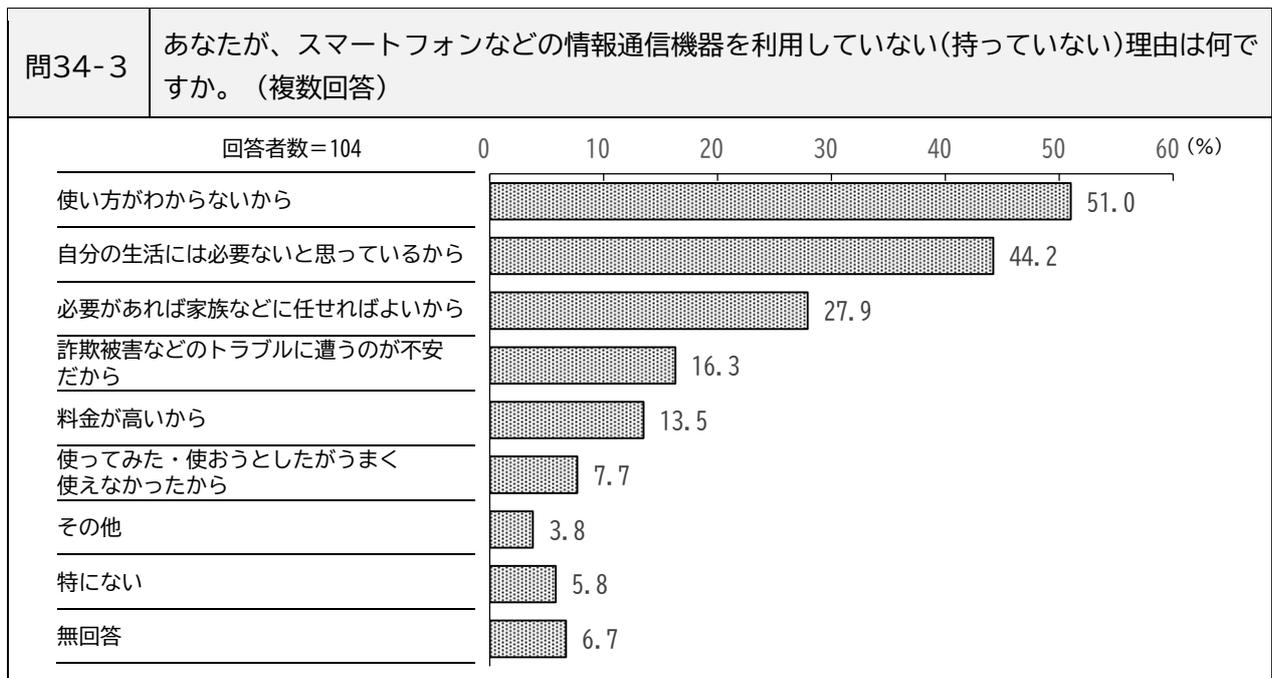


○キャッシュレス決済の利用・金融取引を利用していると答えた方(930人)に、普段どのキャッシュレス決済を利用しているか聞いたところ、「クレジットカード」(85.7%)が8割台半ばで最も多く、次いで「交通系電子マネー」(82.7%)、「バーコード決済」(78.7%)と続いている。

(4) 情報通信機器を利用していない理由

新規

◇「使い方がわからないから」が5割を超える

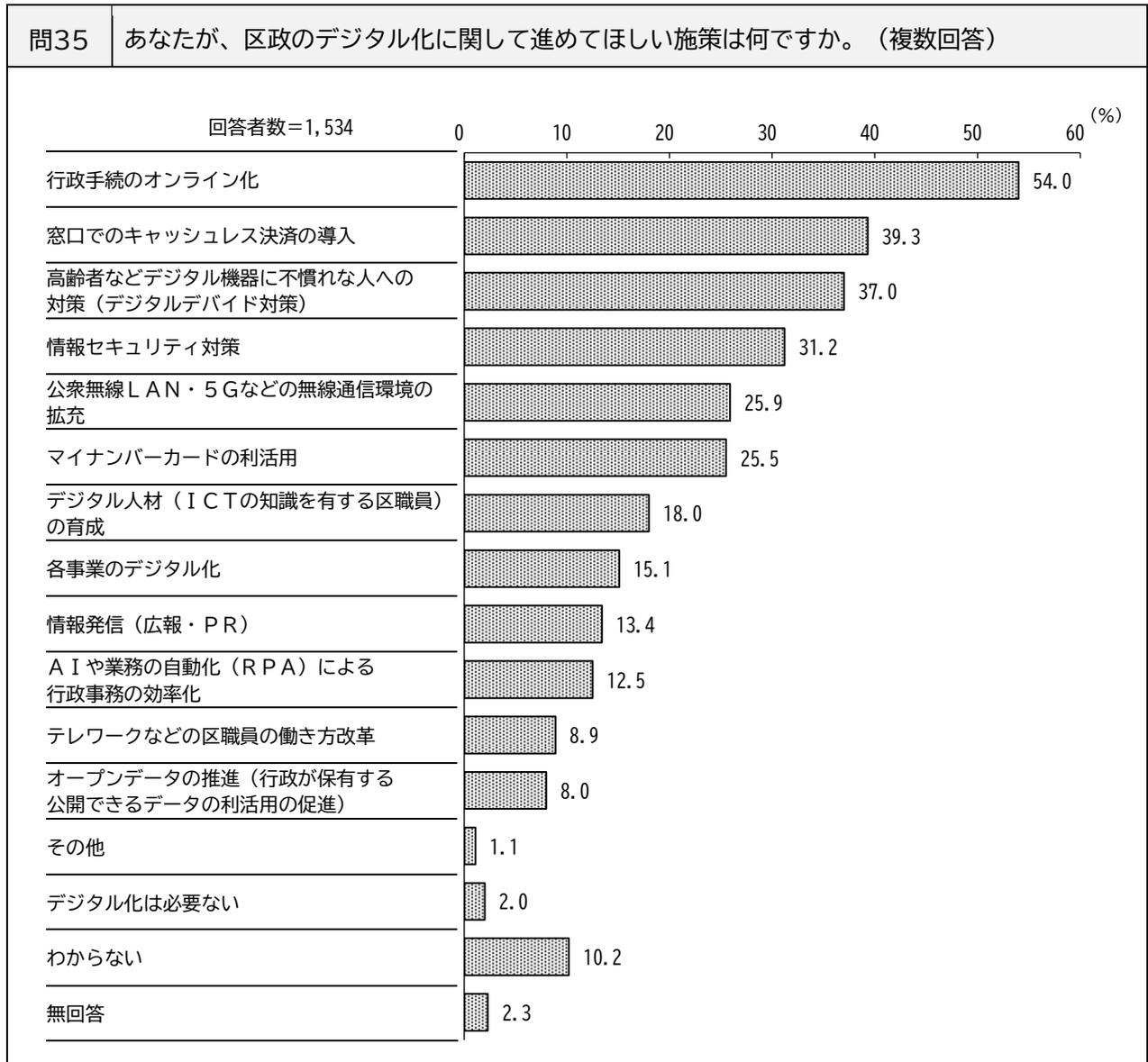


○インターネットが利用できる情報通信機器を利用していないまたは持っていないと答えた方(104人)に、利用していない(持っていない)理由を聞いたところ、「使い方がわからないから」(51.0%)が5割を超えて最も多く、次いで「自分の生活には必要ないと思っているから」(44.2%)、「必要があれば家族などに任せればよいから」(27.9%)と続いている。

(5) デジタル化を進めてほしい施策

新規

◇「行政手続のオンライン化」が5割台半ば

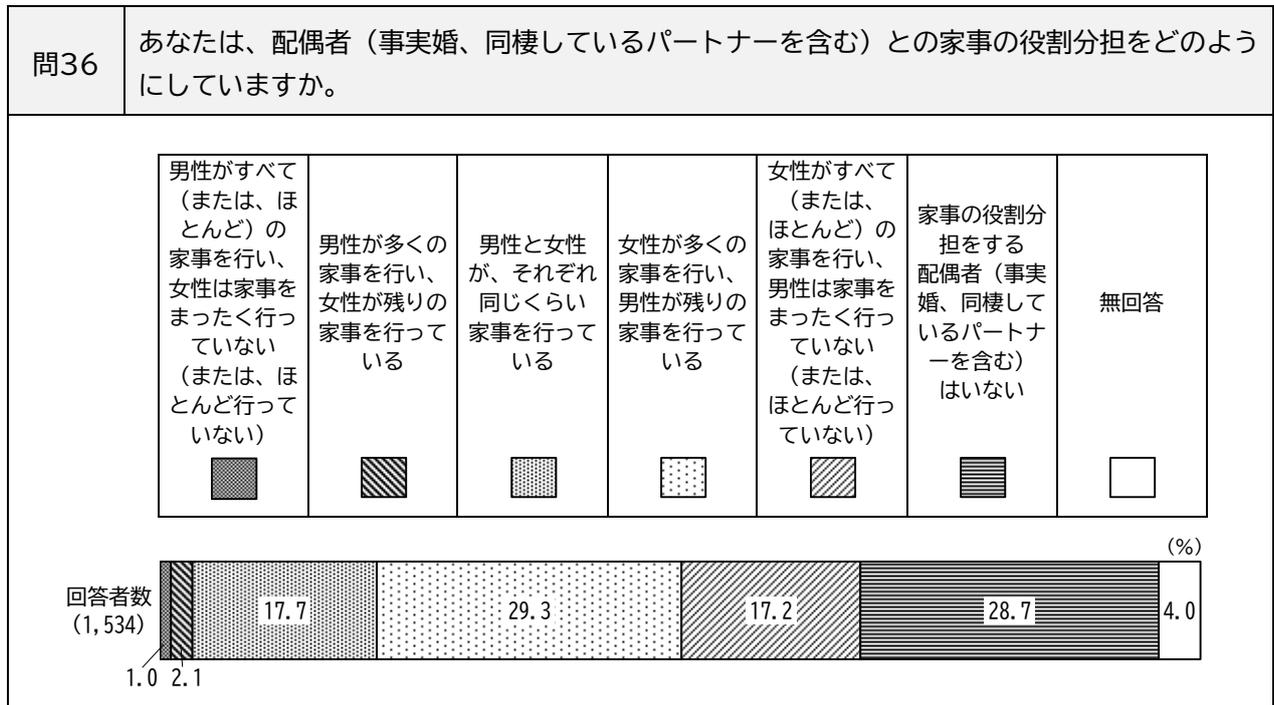


○区政のデジタル化に関して進めてほしい施策を聞いたところ、「行政手続のオンライン化」(54.0%)が5割台半ばで最も多く、次いで「窓口でのキャッシュレス決済の導入」(39.3%)、「高齢者などデジタル機器に不慣れな人への対策(デジタルデバインド対策)」(37.0%)と続いている。

14 男女共同参画

(1) 配偶者との家事の役割分担

◇「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」がほぼ3割

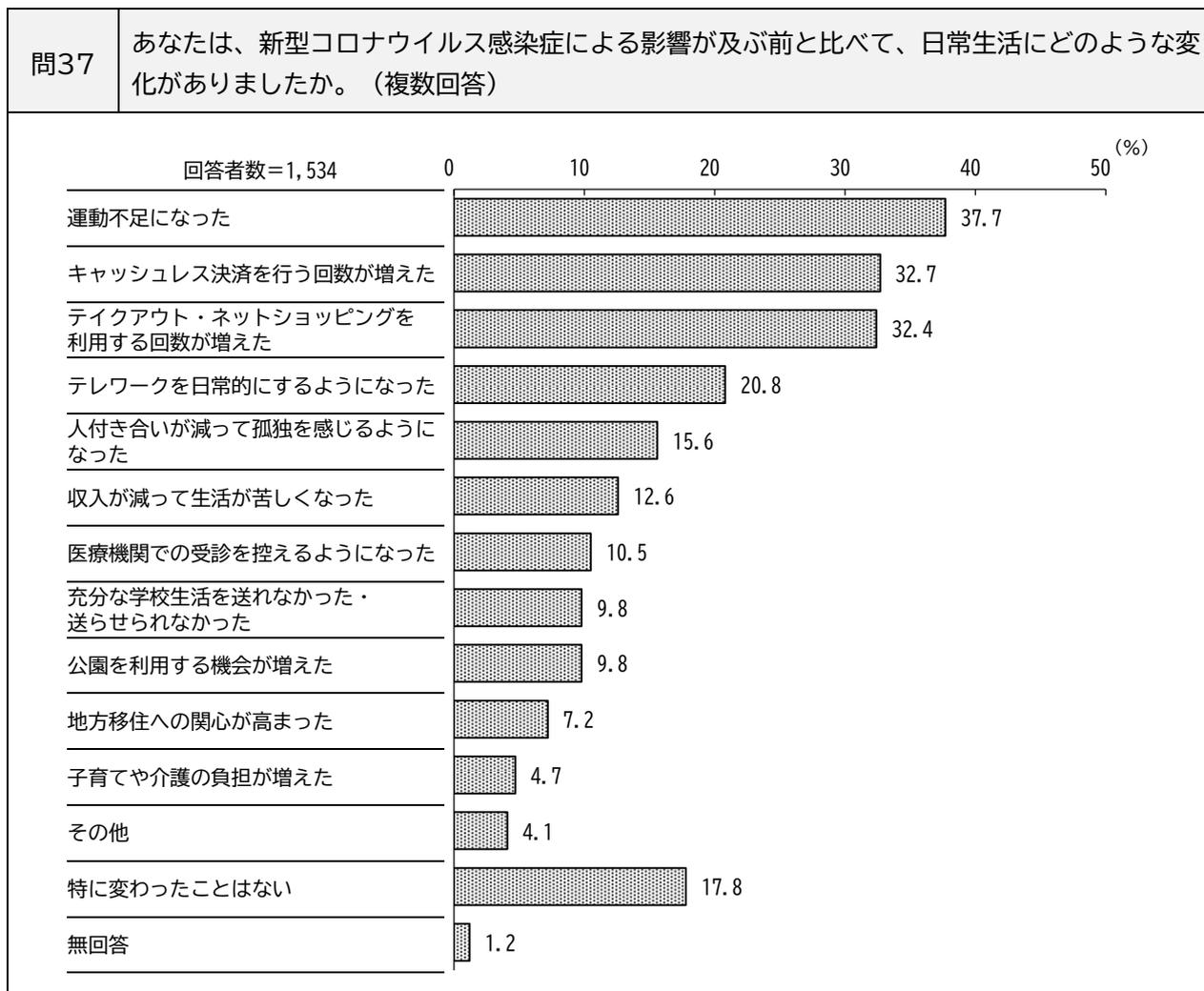


○配偶者との家事の役割分担について聞いたところ、「女性が多くの家事を行い、男性が残りの家事を行っている」（29.3%）がほぼ3割で最も多く、次いで「男性と女性が、それぞれ同じくらい家事を行っている」（17.7%）、「女性がすべて（または、ほとんど）の家事を行い、男性は家事をまったく行っていない（または、ほとんど行っていない）」（17.2%）と続いている。一方、「家事の役割分担をする配偶者（事実婚、同棲しているパートナーを含む）はいない」（28.7%）は3割近くとなっている。

15 コロナ禍による生活の変化

(1) 新型コロナウイルス感染症による日常生活の変化

◇「運動不足になった」が4割近く



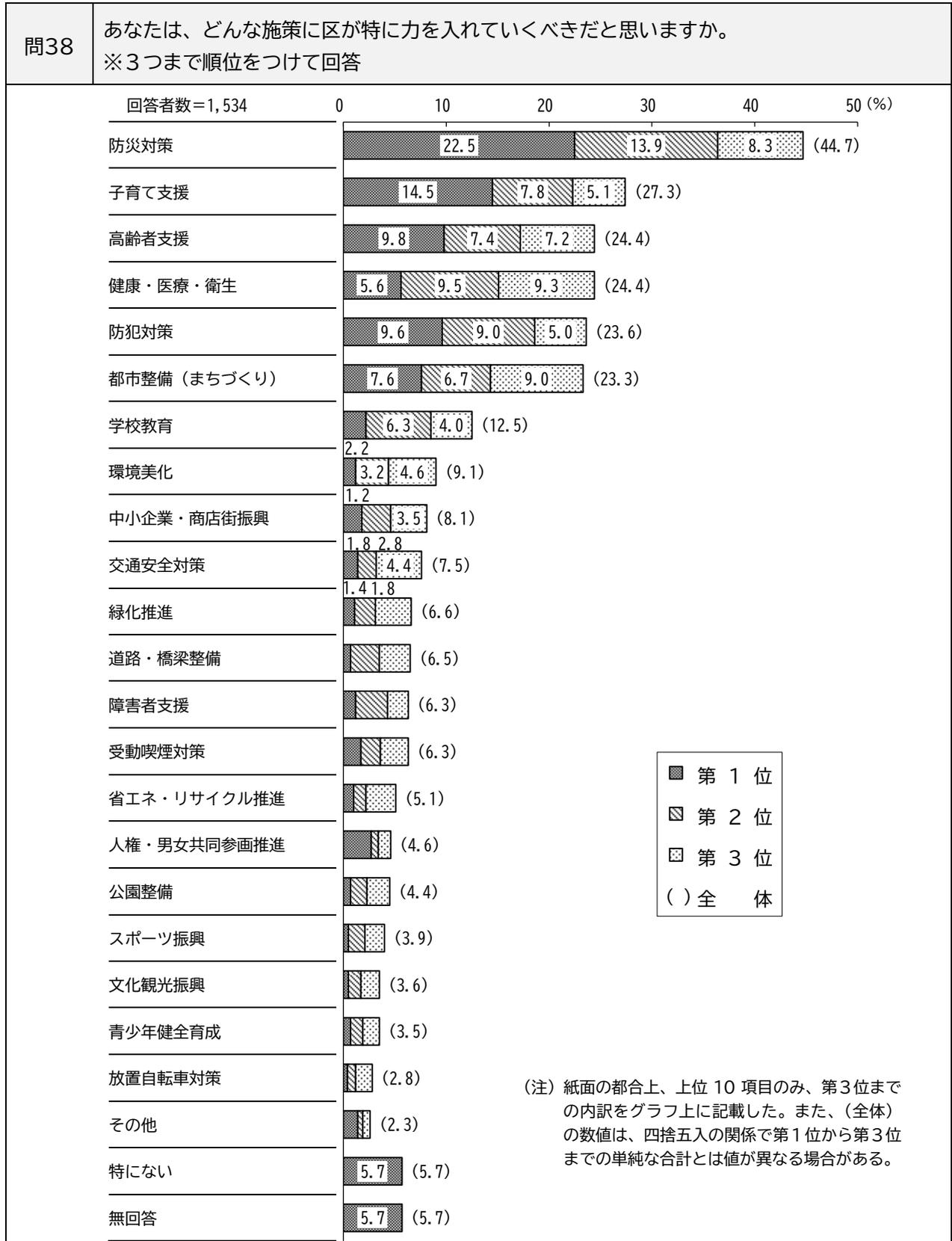
○新型コロナウイルス感染症による影響で日常生活にどのような変化があったかを聞いたところ、「運動不足になった」（37.7%）が4割近くで最も多く、次いで「キャッシュレス決済を行う回数が増えた」（32.7%）、「テイクアウト・ネットショッピングを利用する回数が増えた」（32.4%）と続いている。

16 施策への要望

(1) 力を入れてほしい施策

◇「防災対策」が4割台半ば

第3章
調査結果の概要
16 施策への要望



○区に対して特に力を入れてほしいものを、第1位から第3位までを累計した「全体」でみると、「防災対策」(44.7%)が4割台半ばで最も多く、次いで「子育て支援」(27.3%)、「高齢者支援」(24.4%)、「健康・医療・衛生」(24.4%)と続いている。